

国分寺市教育委員会議事録・第9号

会議の種類 第8回国分寺市教育委員会定例会
会議の日時 令和5年8月10日(木) 午前9時30分
会議の場所 国分寺市立教育センター 2階 203・204号室

会議の出席者

(教育委員会)

教育長	古屋 真 宏
教育長職務代理者	富 山 謙 一
委 員	大 木 桃 代
委 員	辻 亜 希 子
委 員	藤 井 健 志

(説明員)

教育部長	可 児 泰 則
教育総務課長	廣 瀬 喜 朗
学務課長	柳 功 一
学校指導課長	高 橋 美 香

(教科 外国語の採択中は、退室)

学校教育担当課長	關 友 矩
指導主事	渡 辺 大 輔
指導主事	武 田 裕 江
指導主事	稲 村 望
社会教育課長	日 高 久 善
ふるさと文化財課長	新 出 尚 三
市史編さん担当課長	一 ノ 瀬 理
公民館課長兼本多公民館長	本 多 美 子
図書館課長兼本多図書館長	有 賀 真由美

選定資料作成委員会委員長	佐 野 匡
調査研究委員会(小学校)委員長(国語)	小 林 卓
調査研究委員会(小学校)委員長(社会)	柿 崎 洋 一
調査研究委員会(小学校)委員長(算数)	矢 島 英 明
調査研究委員会(小学校)委員長(理科)	大 島 晃
調査研究委員会(小学校)委員長(生活)	氏 原 玲 子
調査研究委員会(小学校)委員長(音楽)	橋 本 弥 記

調査研究委員会（小学校）委員長（図画工作）

坂井由利子

調査研究委員会（小学校）委員長（家庭）

田端敦子

調査研究委員会（小学校）委員長（体育）

宇田川真

調査研究委員会（小学校）委員長（外国語）

伊東真人

調査研究委員会（小学校）委員長（道徳）

堀田直樹

特別支援学級設置校長会長

岡本祐治

（事務局）

書記

保谷裕子

書記

渡邊晃世

書記

山口徹

傍聴人 18人

〔開会と署名委員の指名〕

午前9時30分、教育長は開会を宣言し、署名委員として3番藤井委員、4番辻委員を指名した。

〔前会議事録の承認〕

・令和5年6月29日開催の令和5年第6回国分寺市教育委員会定例会議事録第7号

〔教育長等の報告〕

教育長 本日もお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。夏休みも中盤となりました。連日の猛暑、そして、台風も気になるところです。

さて、本日は令和6年度から使用します小学校教科用図書の新採択も議事に入っています。事前に多くの時間を割いて研究をしていただき、感謝いたします。後ほど審議をしますので、よろしくお願いします。

〔議事〕

1 議案第42号 令和5年度国分寺市一般会計補正予算案について〈教育長提出〉

(議案の内容と説明)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第29条の規定により、教育委員会の意見として市長に述べる必要がある。

教育総務課長 現時点で第3回定例市議会に提案を予定している教育委員会の補正予算案については、債務負担行為が1課2件、歳出が4課1担当の計9件です。従前どおり債務負担行為については、教育総務課で取りまとめて説明し、歳出については、各担当課より説明します。

議案文の裏面1ページ目の令和5年度国分寺市一般会計補正予算案総括表(債務負担行為)を御覧ください。所管は教育総務課です。項番1及び項番2は同種の案件のため一括説明をさせていただきます。経年劣化により老朽化してきている小学校及び中学校のエアコンの新たな借上契約に係る債務負担行為です。第一小学校の職員室、第二中学校の普通教室などのエアコンのリース期間として、令和6年度から令和15年度までの債務負担行為を設定したいというものです。限度額については、小学校の運営に要する経費が5,267万3,000円、中学校の運営に要する経費が917万7,000円です。

続いて2ページ目を御覧ください。令和5年度国分寺市一般会計補正予算案総括表(歳出)です。教育総務課分は、項番1の学校管理費(小学校の運営に要する経費)及び項番2の学校管理費(中学校の運営に要する経費)です。債務負担行為の設定で説明しました空調設備の借上のために、今年度分の使用料及び賃借料を、小学校費89万3,000円、中学校費15万6,000円それぞれ増額したいというものです。

学務課長 学務課は歳出が3件です。

項番1は、児童の通学時における交通安全対策としてランドセルカバーを作成し、配布するための委託料41万7,000円の増額をお願いするものです。今年度中に作成し、来年4月の新1年生入学時に配布したいと考えています。

項番2は、給食食材料費の高騰による小学校費797万円の需用費増額補正です。役務費については、現在使用している口座振替データ伝送回線であるISDN回線が、本年12月末でサービス提供終了となることから、新たな回線切替やその後の基本料金、従量料金

が必要となります。データ回線は給食費の口座振替で利用しているため、役務費 3 万 6,000 円の増額をお願いするものです。

項番 3 は、中学校費になります。小学校同様、給食委託料が 173 万 9,000 円、需用費が保存食分として 76 万 8,000 円、役務費が項番 2 と同様に回線切替に関する費用として 1 万 3,000 円の増額補正になります。

学校指導課長 学校指導課は、諸費（学校指導課関係経費）についてです。各学校に副校長補佐を配置する学校マネジメント強化事業について、令和 4 年度の実績報告の際、実際に支出した額より多く御報告したことにより、超過収入額が発生したため、東京都に返還する必要があり、補正を行うものです。返還額は 1,810 円、内訳は交通費分 270 円、講習分 1,540 円となります。

ふるさと文化財課長 令和 5 年 10 月から実施されるインボイス制度の実施のため、シルバー人材センターの委託業務に係る単価が改定されることに伴い、増額補正をお願いするものです。文化財展示施設に要する経費の委託料については 4 万 7,000 円の増、史跡武蔵国分寺跡公園の管理に要する経費については 18 万 7,000 円の増となります。

市史編さん担当課長 市史編さんに要する経費です。令和 6 年度より新たに市史編さん事業を着手するに当たり、今年度に必要最小限の準備を進めるため、基本方針、事業計画等を検討するための市史編さん推進委員会を設置する予定です。委員謝礼として報償費 17 万 1,000 円、委員との連絡調整のための郵送料として役務費 2,000 円、委員会議事録作成のためのテープ反訳料として委託料 11 万円を計上するものです。

教育総務課長 御審議のほど、よろしく申し上げます。

（意見・質疑の要旨）

な し

（採決）

原案どおり可決（全員一致）

2 議案第 43 号 国分寺市教育委員会会計年度任用職員の採用、勤務時間、報酬等に関する規則の一部を改正する規則について〈教育長提出〉

（議案の内容と説明）

不登校児童・生徒への支援の充実を図るためのサポート教室準支援員の任用に当たり、新たに当該会計年度任用職員の職名を追加するため、必要がある。

学校指導課長 新旧対照表を御覧ください。新旧対照表の職の区分の「技術、経験及び一定の事務処理能力又は技能を必要とする職」について、改正後（案）には学校司書に続いて「サポート教室準支援員」を追加しています。

本市においては、各学校にサポート教室を設置し、専任の支援員が必要な児童・生徒を対象に個別の学習指導等を行っています。先般の補正予算審査特別委員会において、東京都の補助金が認められ、今般、増加傾向にあります不登校児童・生徒の対応のため、本市においても、各学校に配置しているサポート教室の拡充を図っていくこととなりました。今回の拡充に当たり、教員免許を持ったサポート教室支援員だけでなく、免許を持っていないが教員を目指す学生、また、心理系の学びを行っている学生も指導者として加えたいという学校現場からの強い要望もあり、新たな職であるサポート教室準支援員を設ける

ものです。

(意見・質疑の要旨)

なし

(採決)

原案どおり可決(全員一致)

(休憩 午前9時41分～午前9時47分)

3 議案第44号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について<教育長提出>

(議案の内容と説明)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第21条第6号に基づき、教育委員会で決定する必要がある。

学校教育担当課長 市立学校における教科用図書の採択は、義務教育諸学校の教科用図書の無償に関する法律及び同無償措置に関する法律、同施行令、同施行規則に則し、行います。今回は、小学校の通常の学級で使用する教科用図書について、採択替えを行います。

まずは、採択までの流れについて説明します。まず、5月9日から5月24日までの間に、各小学校において学習指導要領の目標及び国分寺市が示す2つの調査の観点である「内容」及び「構成上の工夫」を基に調査を行いました。

次に、6月8日から6月30日の間に各小学校の調査報告書等を参考にしながら、教科ごとに教科用図書調査研究委員会を開催し、送付された見本本全てについて、調査研究をしました。

そして7月28日に教科用図書選定資料作成委員会を開催し、全教科書について、令和6年度使用教科用図書調査研究委員会報告書及び教科用図書見本本、市内教科書展示会で寄せられた市民アンケート結果等を資料として協議を行いました。協議における観点は、「A 内容」、「B 構成上の工夫」の2観点とし、総合検討結果を「国分寺市で使用するのに非常に適当である」「国分寺市で使用するのに適当である」「国分寺市で使用するのに適当とはいえない」の3段階で示しました。

次に、市民アンケートの結果の概要を報告します。市民アンケートは教育センター及び本多公民館、恋ヶ窪公民館、もとまち公民館の3つの公民館において、6月14日から7月4日まで行った法定展示会及び市内展示会でいただいたものです。総数は68件で、各教科の内容や表記に関する意見等をいただきました。これらの市民アンケートについては、事前にコピーを委員の皆様にお渡ししています。

教育長 小学校教科用図書の採択に当たり、これまで各小学校や調査研究委員会、さらには選定資料作成委員会において、様々な研究、協議が行われてきました。本日はその内容を報告します。また、市民からも多くのアンケートによる御意見をいただいています。これらの資料等を参考にして、教育委員一人ひとりの考えをしっかりと踏まえて、教育委員会が責任を持って採択を行います。

それでは、4月27日開催の教育委員会定例会で承認されました要綱に従って、審議を行います。選定資料作成委員会委員長から報告をいただきますが、本日は調査研究委員会委員長も来ています。教育委員の皆様からは報告に引き続き、意見や質問を伺いますので、

よろしく申し上げます。

(1) 国語 (国語)

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 令和6年度使用教科用図書選定資料作成委員会報告を御覧ください。国語については、3番の光村図書出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍、2番の教育出版が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

初めに東京書籍です。よい点として、デジタル関係やネットリテラシーに関する教材が豊富であることが挙げられました。また、写真や挿絵が豊富で、特に写真は鮮明で見やすいものが多いということが挙げられました。一方課題として、情報量が多くなり過ぎて、字が小さくて、読みづらい構成があったことが挙げられました。

続いて教育出版です。よい点としては写真や挿絵が見やすいこと、5年生、6年生で上下の分冊になっていて、持ち運びしやすいということが挙げられました。一方、課題として、情報量が豊富であるが、それだけに文字が小さくて、見づらい箇所があることが挙げられました。

続いて光村図書出版です。6年生の教科書、9ページをお開きください。よい点として、2年生以上の全学年で、教科書の最初の部分に学び方や学んだことを生活で生かしていく方法が掲載されていて、主体的に学べる工夫がされていることが挙げられます。また、物語文の教材が精選され、発達段階に応じたもので挿絵もよいということ、各学年で、生活科や総合的な学習の時間の単元と関連を図ることができる教材が多数あることが挙げられます。

(意見・質疑の要旨)

藤井委員 私は大学受験予備校で、国語を教えているので、国語に関して、非常に興味深く見させていただきました。東京書籍は、高学年の5年生、6年生にインターネットをテーマにした文章が掲載されていたので、これはGIGAスクール構想の中、実際に学校で児童・生徒が実践していることの意味を、この文章を通じて考えるきっかけにもなり、非常によいと思いました。今は情報量が多すぎて、表面的にさっと読み飛ばしてしまう子が多い中、東京書籍は良質な説明文があり、学校でこのくらい読み応えのある説明文を、スピード重視ではなく、教室でみんな一緒に読むには、非常によい文章であるように思いました。

教育出版は作品選定に少しユニークさがあり、定番の作品を外している一方で、『木竜うるし』は残しているなど、面白いと思ったのですが、やはり全体のバランスでは光村図書出版がよいと思いました。この後出てくる書写に関してもですが、全体のバランスがよく、先ほど選定資料作成委員会委員長からも主体的な学びというお話がありましたが、子どもたちが授業を受ける前に全体を読み進めてみたいなと思えて、どの学年も魅力あふれる教科書であるという印象を持ちました。

大木委員 私もいずれの教科書も多くの側面から考える教材が多く、子どもたちの視野を広げることができるように工夫されていて、よい教材を選択されていたと思います。非常に迷いましたが、結論として光村図書出版を推薦します。

理由としては、1点目に選定資料作成委員会資料にもありましたように、教材が発達

段階に応じて、洗練された内容であり、児童の興味関心を引くような文章が多いということ。2点目に、各教材の後の「学習」の「見通しをもとう」の内容が非常に優れていることです。自ら考え、各問いに回答していくことにより、その教材で狙いとされている力を高めることができると思います。考えを導くための具体例が多過ぎないので、特定の考えに誘導されることなく多様な考えが期待できると思います。

また、小学校2年生から巻末に設けられている「言葉の宝箱」は、言葉同士の関連を整理して、語い力を高める上でも使用しやすいということ。また、二次元コードの資料が適切だと思います。分量としても、多過ぎず少な過ぎず、かつ、必要な箇所に必要な内容が配置されています。他の2社も非常に素晴らしい教科書でしたが、このような理由から総合的に判断し、光村図書出版を推薦させていただきます。

辻委員 私も光村図書出版の教科書を推薦します。先ほど大木委員の発言にもありましたとおり、どの教科書も非常によく工夫されていて、また、児童の興味関心を引くものだったので、大変迷いましたが、以下申し述べる点で光村図書出版が優れていると考えました。

まず、1つ目として、学校の授業でクラスメイトや先生と時間をかけて学ぶ文章教材は、後々まで児童の心に強く残るものであると思います。そこで文章教材に注目してみると、どの教科書も非常に魅力的な読み物を配置しているのですが、その中でも光村図書出版が、戦争教材を3年生から5年生に連続して取り上げている点を評価しました。

国語では書く力もしっかりつけてほしいと思いますが、特にその中でも生活文は書くことの基礎となるため、低学年のうちにぜひともしっかりと触れていただきたい分野だと思います。2年生の「日記を書こう」の単元を見ると、光村図書出版の例文が優れていて、子どもたちに示すのに適切だと思います。それから、説明的文章に添えられている写真が美しく、配置が見やすい点も好印象でした。

そして、高学年で古典を多く取り上げている印象を受けました。古典については難しいと感じる子もいるかもしれませんが、小学校段階では古典についての知識や理解をテストで積極的に評価することは多くないと思いますので、むしろ、身近なものとしてぜひこの時期に触れてほしいと思いました。

富山教育長職務代理者 光村図書出版の国語を推薦します。理由としては、1つには調査研究委員会の報告にもありますが、発達段階に応じた教材が精選して配列され、分かりやすい内容になっていました。学習者を引きつけて興味関心を湧かせることができるとともに、国語の学力を定着させていく教科書だと判断しました。

特に低学年の国語の授業においては、話す、聞く、読む、書くといった領域については、非常に抽象度の高い概念や言語を学ぶわけですが、生活科や総合的な学習の時間との関連、つまり、具体的な活動を通して、学んでいくものとの相互関連を図ることによって、言語の獲得はより確実なものになっていきます。そのような配慮がなされているのも素晴らしいことの1つと思いました。

また、写真や挿絵が見やすく、どの教科書にも載っている『大きなかぶ』というロシア民話が採用されているのですが、光村図書出版の写真はロシアの代表的な民族衣装そのものが採用されていて、物語を読んでいくとその背景が、民族衣装と合わせてみると非常によく理解できます。たかが挿絵ですが、非常に効果が高いと思いました。

もう1つは、学んだことをもう一度繰り返すことで、スパイラルになっていき、6年間の国語の力がついていくという学びのカリキュラムが組まれているわけですが、例えば

48 ページに「たしかめよう」という欄があり、5年生で学んだこととして、12 ページが示されています。その12 ページに戻りますと、5年生で学んだことと6年生で学んだことが対比して上下に配置されていて、関連するところが点線で結ばれています。こういった振り返りを行うことにより、同じことを学んでいくそのスパイラルによって、成長します。そのことを先生は意図して指導していきますが、子ども自身が振り返りによって、それを自覚できるのは、母語を獲得していく教科書として大変優れた配慮だと私は考えて、光村図書出版の『国語』を推薦します。

教育長 それぞれ光村図書出版に集約されたようです。私も同意見です。内容については皆様と同様であり、また、障害者理解について取り扱っている部分も他社に比べて、非常に多いと感じました。とても大切な視点だと思います。

それでは、国語につきましては、3番の光村図書出版の『国語』を採択することに決定しました。

(2) 国語（書写）

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 書写については3番の光村図書出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍及び2番の教育出版が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

初めに東京書籍です。よい点として毛筆だけでなく、硬筆の教材も多く取り上げられていることが挙げられました。また、目次に学習内容の系統表が記載されていて、児童が学習の見通しを持ちやすいこと、巻末に既習事項のまとめがあることが挙げられました。一方、課題として、6年生の毛筆教材の配置を見ると「湖」という1文字の教材の後に「中秋の名月」と5文字になっていることから、児童の実態に合わないのではないかとということが挙げられました。

続いて教育出版です。よい点として鉛筆や筆の持ち方、書くときの姿勢などの記載が詳しいこと、また、消しゴムの使い方の説明があるなど、1年生の初めに鉛筆の持ち方だけでなく、消しゴムの使い方まで記載されているということが挙げられました。一方、課題として、印刷が多色刷りで見づらい部分があるということが挙げられました。

続いて光村図書出版です。5年生の教科書20 ページをお開きください。よい点としてSDGsと関連づけるページが設けられており、国語や他教科、日常生活に関連する教材があることが挙げられました。また、写真や挿絵が多く取り入れられて、わかりやすい構成となっていることが挙げられました。

(意見・質疑の要旨)

藤井委員 どれも甲乙つけがたかったのですが、挿絵、写真の分かりやすさ、具体的にいうと、子どもたちが見て、自分が今から書く書き方が分かりやすく、書くものを確認しやすいという意味で、光村図書出版はいいと考えました。

大木委員 私も同じく光村図書出版の『書写』を推薦したいと思います。

理由としては、1点目にイラストなどを活用して、文字の書き方をイメージしたり、注意を向けたりする説明がわかりやすいこと、また、イラストがしつこくなく、ポイントや振り返りも適切であることです。

2点目に、特に6年の書写ブックでは過年度に学習したことが、系統立てて示されて

おり、日常生活への応用が強く意識できる構成となっている点です。

3点目に、先ほどの選定資料作成委員会の報告にも記されていますが、他教科との関連の提示も適切です。

4点目に、他社でもありましたが、特に左利きの児童の鉛筆の使い方などが最初の時点で大きく記されているところを評価しました。

辻委員 私も光村図書出版を推薦します。

理由としては、情報量が適切で見やすいと感じたことです。また、資料が多く、文字を歴史的な視点から見られるという資料的な意味からも、光村図書出版が優れていると感じました。先ほど委員のお話にもありました1年生の鉛筆の持ち方で、教育出版が左利きの写真の取り上げ方が複数あってよいと思ったのですが、全体的に見ると、光村図書出版がその他の点で優れているので推薦したいと思いました。1年生の最初に左利きの児童にも正しい鉛筆の持ち方を指導するというのは、授業の際に指導する先生方にぜひ工夫していただきたいと思いました。

富山教育長職務代理者 私も光村図書出版の『書写』を推薦します。3年生は毛筆を初めて習い始める学年です。2ページに「毛筆の秘密」と書かれていて、「秘密1」には線の細さが自由自在であると書いてあります。そして「秘密2」には、柔らかい毛でできている筆の毛先が写真で載っていました。「秘密3」に筆をつくる職人、筆を人がつくっている写真が載っています。筆は東アジアでも広く使われていますが、日本の伝統文化としての毛筆という特性が、この見開きのページでよく示されていて、学び始める、書き始める3年生の子にとっては、よい導入がなされていると思いました。

筆を持って書くということはなかなか難しいものです。大人になっても難しいです。一番基本になるのは、やはり「入れ」「とめ」「はね」で、その「入れ」のところで迷い、なかなかうまい字が書けないのですが、12ページには穂先の向きと軸の傾きという非常にシンプルで大事なことが記されています。毛筆で書くときには穂先をいつも左斜め上にして入れるということです。その隣に「斜め穂先ちゃん」という子どもがニコッとしている絵があり、毛筆で書く最初の「入れ」、一番神経を使う大事なところがいとも簡単に明確にシンプルに書かれています。最初に期待を持って、毛筆の筆を握る子どもたち誰もが上手になっていくような導入をされていて大変興味を持ちました。また、字のよい例とか、こう書いたらよいというところ、筆使いが視覚的で非常に分かりやすい教科書になっていると思います。

教育長 皆様と同様の意見で光村図書出版を推薦いたします。私も同じように、1年生のスタートブックなども、非常に親しみのある構成になっていると思います。書写体操という表現もありました。

それでは、書写についても、3番の光村図書出版の『書写』を採択することに決定しました。

(3) 社会

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 社会については1番の東京書籍、2番の教育出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、3番の日本文教出版が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

初めに東京書籍です。よい点として「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という

学習過程になっていて、「まとめる」では話し合い活動が示されています。主体的、対話的で深い学びにつながるものが挙げられました。また、第5学年が上下分冊になっていて、第6学年が「歴史」と「政治・国際」で分かれているという特徴が挙げられました。

続いて教育出版です。よい点として「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」という学習過程になっているとともに、「この時間の問い」という言葉があり、1単位時間の学習のめあてを児童に持たせやすくしていることが挙げられます。また、6年生の教科書では、歴史の導入ページに年表が挟まれており、歴史の概観をつかみやすいことが挙げられました。

続いて日本文教出版です。よい点としては江戸時代の終わりから明治時代の初めにかけて、大きく掲載されており、比較しながら考えさせる紙面構成になっていて、学習問題をつくるのにより構成になっていることが挙げられました。一方、課題としては、まとめ方がポスターや新聞など、これまでの一般的な方法が多いということが挙げられました。

(意見・質疑の要旨)

藤井委員 質問です。これは社会にかかわらず、ほかの教科にも関係してくる話ですが、二次元コードに関しては、各社・各科目、非常に魅力的なものが多かったのですが、市民の方のアンケートの中にも、この二次元コードの多用が、かえってマイナスに働かないかという心配の声もあったのですが、「教科書を」教えるという側面と「教科書で」教えるという側面があるとすれば、この二次元コードの場合は「教科書で」教えるの部分で、その指導に当たられる先生方が状況に応じて、利用するものやしないもの、あるいは、子どもたちが自分の手段に応じて教科書で学ぶ際に必要などころを使いたければ使うという形で、二次元コードから誘導されるものを全部学ばなければいけないというものではないと私は理解していますが、そのような理解でよろしいでしょうか。

選定資料作成委員会委員長 委員会の中でも、特に二次元コードについてマイナスであるという意見は出てきていません。各学校の先生方が必要に応じて、使われているのだろうと理解をしています。

藤井委員 3社とも非常によく、日本文教出版も読み応えがあり、特に歴史分野のコラムなどもよいと思ったのですが、東京書籍と教育出版は、子ども目線で世界の空間的な広がりであったり、歴史的な時間的の広がり、児童が自分を主体にして、そこから自分の展望を広げていきやすい構成になっているため、この2社がよいと思いました。

中でも東京書籍は5年生で上下に分かれて、そこから歴史分野と地理分野に分散させていく形で、そこから中学校、そして高等教育へと広がっていくというのが、構成上、一歩抜き出ているという印象を持ちました。

大木委員 私は選定資料作成委員会で「非常に適当である」とされた東京書籍と教育出版の間で非常に迷いました。結論としては教育出版を推薦します。

理由はたくさんありますが、まず、見開き2ページごとに「この時間の問い」と「次につなげよう」という課題が設定されていて、児童が各時間の目的と次の流れをつかみやすいこと、さらに、3、4年生では3つのポイントからなる「活動」というのも記されていて、具体的な進め方をイメージしやすいと思いました。

特に評価した点は、両論併記と国際的な平和友好という観点が明確であることです。例えば5年生の17ページで取り上げられている領土問題について、「領土問題はないというのが日本の立場ですが、中国も自国の領土であると主張しています。日本はこれらの

島々が日本の領土であることを相手国や国際社会にしっかりと伝え、課題の平和的な解決に向けて、粘り強く努力を続けていく必要があります。」と記載しています。また、登場人物の吹き出しでも「国にとって領土はとても大切だけれど、となりの国々とはなかよくしていきたいね。」と書いています。ただ、単純に領土問題は存在しないというだけで終わってしまうのではなく、他国の主張もあるという事実を踏まえた上で、日本が国際社会に向けて、これらの島々が日本の領土であるということを冷静かつ平和的解決を目指して訴えていくのだという、より建設的な表現になっていると思います。これから世界に羽ばたいて活躍してほしい子どもたちには、そのような友好的かつ平和的な理念をぜひ念頭に置いてほしいと思いました。市民アンケートにおいても、その点を評価している点が見られています。

あとは、市民アンケートにもあるように、歴史上の様々な出来事や事象について、資料を基に考えさせる問いかけや、グローバル化に対応した表記をされていて様々な角度から広い物の見方を養うことができるという点です。

先ほどの藤井委員のお話にもありましたが、子ども主体の表記が多いと思いました。例えば6年生の歴史の212ページや222ページの戦後の教育制度の中で、社会科について「民主的な社会のしくみや暮らしのあり方を子ども自身が考えていくようになったのです。」と、この社会科を学ぶことが、一方的に知識を与えられるのではなく、自分たちが考えていくのだということを歴史の流れと合わせて、改めて強調しているという点、そして6年生の同じく236ページでは「歴史を学ぶ意味を考え、未来につなげよう」と、単に振り返るだけでなく、意味を考えるという視点が非常によいと思いました。そのほか、総合的に考えて、教育出版を推薦します。

辻委員 私も東京書籍と教育出版の間で迷ったのですが、結論としては東京書籍を推薦します。理由としては、まとめの学習段階で、児童同士の話し合いが示されていることによって、主体的な学習が強調されている点がよいと思いました。それから、資料や説明などの情報が多い点も評価できると思いました。これによって、調べ学習にも充分使える教科書となっていて、学習の進め方がスムーズになるのではないかと思います。特に資料については、資料を適切に読み取る力というのが他教科や小・中学校でも求められてきていますので、小学校の段階で多くの資料に触れておいて、抵抗感をなくしてもらいたいという点からもよいのではないかと思います。

それから最後に、消極的な意見のように聞こえるかもしれませんが、SDGsはもちろん大事なことではあるのですが、強調され過ぎると子どもたちが消化不良を起こす可能性があるのではないかと少し心配していますので、これが強調され過ぎていないという点でも、東京書籍の教科書に好感を持ちました。

富山教育長職務代理者 非常に迷いました。東京書籍、教育出版、そして日本文教出版、いずれもそれぞれの特色があって、差がないというのが私の実感です。とりわけ日本文教出版を見てみると、国分寺が取り上げられていて、国分寺市と国分寺駅がまだ残っていますという記述もあり、第二次世界大戦の多摩地区にある戦跡としての東大和市の遺跡も載っていました。また、深大寺の最近国宝になった白鳳時代の仏像、白鳳仏も載っていました。社会科学習は自分の身近なところから始めて、日本へ、世界へと、どんどん同心円的に広がっていくという社会認識を深めることが、社会科学習の基本になっているのですが、それをとても意識した教科書になっています。とりわけ小学校はそのことが大事とされていて、これにも大変ひかれたのですが、それぞれ比較し、結論として、教育出版の『小学

社会』を推薦します。

特に社会科学習は、社会科の「教科書を」勉強するのではなく、社会科の「教科書で」勉強する。社会科の教科書は教材の1つに過ぎず、たくさんの資料を集めて、勉強するというのが基本になっています。そうなるとう何をどう学ぶかというのが非常に希薄、散漫になってしまいますが、この教科書では「この時間の問い」があり、「つかむ」「調べる」「まとめる」と、単元の最初で学習課題を明確につかめるようにしてあります。学習過程をしっかりと示して、学習課題を明確にし、はっきりと学習者に探究的な学び方をつかめよう配列がとてもよいと思います。

「まとめる」と「つなげる」という形でも、主体的で対話的な学習が進展するような配慮がなされているのもとてもよいと思います。さらに、社会科学習は、言葉から社会事象を読み取っていくわけですが、そこにある資料や写真も、理解し、思考を深めるため、あるいは、問題を解決するために大事なものになると思うのですが、とてもわかりやすく、しっかりとしたカラー写真や挿絵が配置されています。

以上から、私は教育出版の『小学社会』を推薦します。

教育長 お二人ずつで分かれた状況ですが、私としても、東京書籍と教育出版、この2社で非常に悩みました。委員のお話も様々ありましたが、私は教育出版を推薦します。対話的な学習場面も非常にたくさん例示をされていて、とても使いやすいと思いましたし、先ほど辻委員がSDGsの話をされましたが、逆に強調しなければ、子どもたちの意識は深まっていけないという側面もあると思います。

さらに、東京パラリンピック・バドミントンでメダリストの山崎悠麻さんのインタビュー記事が載ってまして、山崎さんは国分寺市出身で、非常に国分寺市を想っていらっしゃる方でもあります。そういった方からのインタビューメッセージが載っているというのも、国分寺市の子どもたちが学んで、そこから励まされて、学びを深めていく、そんな教科書になると感じました。

私としても教育出版を推薦したいと思います。辻委員、藤井委員、よろしいでしょうか。

辻委員・藤井委員 結構です。

教育長 それでは、社会科については、2番、教育出版、『小学社会』を採択することに決定しました。

(4) 社会 (地図)

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 地図については2番の帝国書院が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

東京書籍はよい点として、県境を示す境界線が濃く見やすくなっていること、県名のフォントがルビも含めて大きく示されていることが挙げられました。一方、課題として、地図がどのようにつくられているかイラストで示されているもの見えづらいことが挙げられました。また、地図帳を扱い始める3年生にとって、情報量が多いため、文字が小さく読みづらく感じる面があることが挙げられました。

続いて帝国書院です。よい点として上空から見た学校の周りの様子、それを真上から見て、地図に起こしていく図が徐々に描かれています。最初の20ページまで、地図の見

方や地図記号、様々な地図の約束が記載されており、地図帳を扱い始める3年生にとって使いやすいということが挙げられました。また、多摩地域まで掲載されていることで、自分ごととして地図を活用しやすいということが挙げられました。

(意見・質疑の要旨)

藤井委員 どちらもよくできていると思いましたが、私自身のことを考えてみると、小学生のときに学習と関係なく、日常生活の中で一番開くことが多かったのが、地図帳だと思うのですが、そのあたりを考えると、索引の使いやすさでは、帝国書院が調べやすいと思いました。生活の中でふとした調べたものが歴史的な広がりを持っているとか、地理的な広がりを持っているとかに繋がるヒントになると思いましたので、私は帝国書院がよいと考えました。

大木委員 私も帝国書院を推薦します。

理由として、2社を比較したときに、1点目として、地図として見たときの情報量が適切で見やすいということ、山地と平地の色分けも明確でわかりやすいということです。

2点目、地図帳の使い方の導入部分が充実しているという点。

3点目、トライ、あるいは地図マスターへの道というクイズがついていて、地図に親しみながら、地図や地形に対する理解を深めることができるという点。

4点目、二次元コードの情報も充実しているという点。

5点目、一番大きかったのが、多摩地区が大きく掲載されているという点。以上から帝国書院を推薦します。

辻委員 私も帝国書院を推薦します。理由としては、地図帳の使い方の導入部分がわかりやすいという点、それから多摩地区が掲載されているという点、これは重要かと考えましたので、帝国書院を採択することが適切と考えました。このほかに文字も見やすいと思いましたが、情報量や示し方も全体として、わかりやすく適切だと思いました。

富山教育長職務代理者 私も同じく帝国書院の地図がよいと思います。地図を見ていると楽しくなって、どんどんいろいろなことを調べたくくなって、次々発展していくという要素を地図は持っています。そういう目で見ていくと、1つは二次元コードが地図に加わって、さらに地図が面白くなっていくというのは、非常に子どもにとって、ワクワクするのではないかと思います。

もう1つは、社会科では、SDGsは避けて通れない部分なので、地図帳の中で十分に詳しく展開させていることがよいと思いましたが。さらに、小学校では地理的分野だけではなくて、歴史的分野も学習するわけですが、69ページ、70ページを見てみますと、江戸のまちの様子と人々の暮らしということで、江戸時代を理解するのに非常によい資料がここに載っています。この半ページを見るだけで、江戸時代の政治・経済や、その後ろで130万人の人たちがどう暮らしていたのかという本当に知りたいところが手にとるように見えてきます。特に生活の中の水をどうしたとか、あるいは排せつ物はどう活用されていたのかということまで詳しく書かれていますので、そういった面で歴史学習を助ける資料にもなります。

総じてこの地図帳は、大変素晴らしい地図帳と思い、帝国書院を推薦します。

教育長 皆様、同意見ということで、私も同じ意見です。防災の資料も非常に豊富と感じ、大切な視点と考えています。

それでは、地図については、2番、帝国書院『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』を採択

することに決定しました。

(5) 算数

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 算数については1番の東京書籍、5番の啓林館が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、2番の大日本図書、3番の学校図書、4番の教育出版、6番の日本文教出版が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

初めに東京書籍です。4年生、上巻の8ページを御覧ください。よい点として単元の初めに既習事項や児童が興味関心を持つ内容の提示があり、児童が考えを持って単元をスタートさせることができることが挙げられました。また、同じ教科書内の35ページを御覧ください。各単元で学習した内容について、大切な見方、考え方が示されているという工夫がされています。また、1年生のスタートブックでは、本の大きさが各学年と比べて、一回り大きいサイズになっています。また、平らなところで開けたときに文字が書きやすく、また、おはじきや算数ブロックなどが置きやすいなどの利点が挙げられました。また、イラストや色使いも見やすくなっています。一方で、説明が丁寧過ぎるため、児童が主体的に学ぼうとする意欲が削がれるという意見があるものの、個別最適な学び、誰1人取り残さないという観点からは、このような丁寧さも必要でないかということが挙げられました。教科用図書選定資料作成委員会においても、子どもたちが自ら学びに向かうという観点から考えると、必ずしも課題であるとは捉えられないという協議がありました。

続いて大日本図書です。よい点として、各単元の導入に児童にとって身近な事象を取り上げ、この単元では何を学ぶのかということがガイドされています。これから始まる学習への興味や関心が高まり、主体的な学びにつながるという意見が挙げられました。課題として、イラストの色合いがきつ過ぎる、あるいは落ち着かないのではないかとということ、また、年間1冊で上下の分冊でないということに関して、特に低学年、中学年には持ち運びに負担があるということが挙げられました。

続いて学校図書です。よい点として、各単元に、児童が興味関心を持てるようなストーリー仕立ての「はてなを発見」というコーナーがあり、これから始まる学習への意欲づけになっていることが挙げられました。一方、課題として、字の線の細さなど文字の見づらさ、あるいは、本自体が他社と判が異なり、大きさが少し扱いづらいのではないかと課題も指摘されました。

続いて教育出版です。よい点として児童が、主体的に考えるきっかけを与えるコーナーが挙げられていました。一方で課題として、対応する直線や線分図で考えさせるような問題が大変多く、逆に児童の思考を狭めるのではないかと。また、年度初めに指導しておきたいノート指導のページが巻頭でなく数単元進んだ後にあるのが、非常に扱いづらいということが挙げられました。

続いて啓林館です。4年生、上巻の23ページを御覧ください。こちらも他社同様、単元の初めに、児童にとって身近な事象から単元のめあてに結びつけられるような項目があり、導入として大変扱いやすくなっていることが挙げられました。その一方、情報量の多さ、様々なフォントの混在、イラストの配置やイラストの数など、わかりやすさ見やすさにおいて課題が挙げられました。

続いて日本文教出版です。よい点として、数と計算の領域の単元が連続して扱われ、定着につながるということが挙げられました。一方、苦手意識のある児童にとっては、苦

しい期間が続いてしまうということが、課題として挙げられました。巻末の問題についても、児童にとって主体的かつ発展的に学ぶために有用であるものの、分量が多く、手が回らないことが挙げられました。

(意見・質疑の要旨)

大木委員 今回、「国分寺市で使用するのに非常に適当である」とされた、5番目の啓林館の『わくわく算数』ですが、こちらの調査報告内容では、よい点とされた白丸よりも課題とされた黒丸がかなり多いように見受けられますが、総合検討結果として非常に適当であるとされた理由を教えてください。

選定資料作成委員会委員長 啓林館についてですが、黒丸が6点あるかと思います。教科の調査の報告からも、見づらいのではないかという報告が上がっていますが、選定資料作成委員会の中で改めて確認したところ、委員の中から、コラムの位置の配置などは使いやすいのではないかという意見も出てきました。それを加味して今回非常に適していると挙げさせていただきました。

大木委員 調査報告の内容をさらに委員会で検討した結果、必ずしも該当するわけではないという点があったということですね。そのほか各観点における重みづけなども加味されたと考えてよろしいでしょうか。

選定資料作成委員会委員長 黒丸の中に、見づらいなどの意見もちろんあるのですが、それは見る人の主観にもよると思いますので、選定資料作成委員会の中で確認したところ、コラムの位置等は問題ないのではという意見が出ました。

大木委員 承知しました。

富山教育長職務代理者 先ほど藤井委員からもありましたが、二次元コードが教科書の中にたくさん入っています。これが適切なのか不適切なのかは教科によっても違いますし、二次元コードの内容そのものによっても違ってくると思います。1点目の質問は、多過ぎた場合に授業内容で扱いきれないと東京書籍の報告にあるのですが、今回の算数教科書のそれぞれの二次元コードにある内容という限定の中で、二次元コード数及び内容はおおむね良好な範囲に入っているのか、あるいは役立たない範囲に入っているのか。それから2点目は、二次元コードを先生が授業の中で全部開いて扱わなければいけないのか、その2点について教えてください。

調査研究委員会委員長(算数) まず二次元コードについてですが、委員の中で意見が分かれるところでした。ただ、コロナ禍を挟んで、選定の基準が大分変わってきたというイメージがあり、特に個別最適な学びというところで、二次元コードは算数において非常に有用だと考えております。また、思考を妨げるのではないかという意見が委員の中から出たのですが、そちらについても子どもたち一人ひとりのペースに合った学習をする上では、非常に大切であり、また、GIGAスクール構想によって1人1台端末を持っているため、それを有効活用できれば、二次元コードは決して多過ぎず、かなり有用であると判断しています。

富山教育長職務代理者 もう1つ、東京書籍の報告の中に「説明が丁寧すぎるため主体的に学ぼうとする意欲が削がれる」「思考力の育成につながらない」とあります。どこまで説明すれば、子どもは分かって進んでいくのか、その塩梅というのは非常に個別具体的に微妙なのですが、どんな議論の中で出てきた話なのか教えてください。

調査研究委員会委員長(算数) ここが一番大きな議論だったのですが、実は私は前回の

教科書採択の調査研究にも関わっていました。東京書籍は以前から説明が丁寧だったので、前回のときはそれが主体的な学びに対する足かせになるのではないかと、教育出版に変わりました。今回、コロナを挟んで、子どもたちが一人で学んでいかななくてはいけないのではないかとといった視点に立ったときに、決してこれは丁寧過ぎるといふところの範疇に収めてはいけないのではないかと、子どもたちが学ぶために必要な記述ではないかと捉えるようになったと感じています。

富山教育長職務代理者 ありがとうございます。

藤井委員 東京書籍と啓林館でとても悩みました。説明が丁寧過ぎるといふくだりについては、私自身、自分の仕事でも思うのですが、意外と教科書に書いてある説明を読むのは、読む側の主体性はあまり削がれないのではないかと思います。人に説明してもらって理解するという作業は試験中にはやらず、自分で考えて解くという形になるため、私などの予備校講師は、あまり授業でわかりやすく説明し過ぎてしまうと向こうの主体性を削ぐため、気をつけているのですが、文章として書かれている説明を読むという作業に関しては、読む側が必要に応じて立ち止まって考えるので、教科書自体の説明が丁寧過ぎることはあり得るかもしれませんが、東京書籍で僕はそのような印象は受けませんでした。

一方、啓林館も同様に説明がよいと思いました。幾つか黒丸がついていますが、啓林館の教科書を自分も使った、あるいは使っているという人が多く、慣れている分、出てくる細かい指摘なのではないかと思ひ、全体としては啓林館が非常によくできていると思ひます。巻末の「学びのサポート」の部分が、子どもたちが積極的に予習をしようと思えば、これから新しく学ぶ単元の準備というところにウェイトをかけられたり、授業を受けた後に少し足りないと思えば、そこを復習して、もっと練習をやったりというものが、比較的低学年のうちから設定されていて、私にとってはすごく刺激的で、啓林館の教科書を推薦したいと考えました。

大木委員 私は東京書籍を推薦します。

理由としては、啓林館もすごくよいと思ひて迷ったのですが、全体的にイラストや色使いが落ち着いていて、すっきりとしている点、それから、各単元最後の「つないでいこう算数の目」で大切な見方や考え方を広げて、さらにできるようになったことを「次に考えてみたいこと」というように、自分の言葉で記述することによって、自分の学びをより深め、そして自分ごととして考えていくことができるのではないかと思ひました。

一番気になったのが、報告書にあった「説明が丁寧過ぎる」という点でしたが、私もそこまでは感じなかったのと、個別最適な学びという観点からすると、算数が苦手な児童にとっては、むしろ苦手意識を減らすという意味においてよいのではないかと思ひます。得意な児童に対しては二次元コードがありますし、いろいろ自主的に進めていくこともできると思ひますが、いかに算数嫌いのお子さんを減らすかということを考えたときには、丁寧なほうがよりよいのではないかと思ひました。あとは、余談ですが、5年の上巻で大谷翔平さんの記事が出ていて、大谷さんが野球にも算数の知識が必要で扱っているということが書いてあります。5年生になるとだんだん難しくなると、算数に苦手意識を持つ児童が増える学年であります。世界のスーパースターが現在学んでいる算数を野球にも役立てているとコメントするのは、モチベーションを高めるのによいのではないかと感じました。

以上のような点から、私は東京書籍の『新編 新しい算数』を推薦します。

辻委員 私は啓林館と教育出版で迷ったのですが、結論として啓林館を推薦したいと思

います。他社に関する御報告の中で、ないほうがよいという意見もありましたが、私は1年生のスタートブックがよいと思いました。各社あるうち、啓林館のものは文字情報よりも絵や写真を多用していて、入学したばかりの子どもたちにはなじみやすいと思いました。また、授業をする先生方による工夫が多様にできるのではないかと思います。全体的に情報量も適切で、スタートブック全体とした全学年情報量が適切で見やすいと思いました。それから、各単元の前に「準備のページ」を置いて、そこで現実にかかるような場面から学習に入れるようにしています。他社でもそのような工夫は各種なされていますが、啓林館の準備の場面は、一番日常生活に密接なもので、子どもたちが入り込みやすいのではないかと感じました。

この調査報告内容では黒丸が多い点が気になっていたのですが、先ほどの質問に対する回答でそれほど重要視するものではなく、見方の問題であるという説明、回答がありましたので、啓林館を推薦してよいのではないかと考えた次第です。

富山教育長職務代理人 私は啓林館と東京書籍が甲乙つけがたいと思いながら、見てきました。結果として、私は東京書籍の『新編 新しい算数』を推薦します。

その理由の1つは、児童の考えから単元を始めるように仕組まれているところです。小学校の算数は、きれいな答えを最初から求めて、その答えをたくさん出していくというのではなく、問いを発したら、児童の数だけ答えがあるというような、いろいろな個人の考えが出てきて、それをディスカッションして考えていくと最もきれいな形になり、それが答えになるのがよいと思います。自分の身の回り、生活から始まっていくのが、私はよいと考えていますので、そういった意味では、単元の初めに自分の考えを出していき、そこから学習が始まっていくという学びのスタイルというのは、大変評価できるのではないかと思います。

それから、丁寧過ぎるのかそうではないのかということについては、やはり算数ほどこかですまずいてしまうと、そこから先に進めなくなるという傾向があると思いますので、つまずきを生み出さない、どの子もつまずいたままにしないという視点に立つと、細かく丁寧に説明するほうが、教科書の意味としては大事ではないかと考えました。そういう点では、丁寧過ぎるというのは欠点ではなく、クラス全体の子どもたちを見たときには、むしろ大切な教科書の要素ではないかと考えます。

それから、二次元コードも多過ぎる、そうではないという話があったのですが、算数を学んでいるときに、既に理解した子どもがクラスの中に多々いるわけですが、そのときに遊んでしまうのではなく、発展的に、あるいは思考を広げるといった意味合いで、二次元コードを使うことも学習の中であってもよいのかと思い、総合的に今の子どもたちに適しているのは、東京書籍の『新編 新しい算数』ではないかと思い、これを推薦します。

教育長 私も東京書籍、啓林館で悩みましたが、結論としては東京書籍を推薦します。

1つはスタートブックがあること、学習の動機を重視しているところです。例えば2年生では、友達ともっと仲よくなるためにみんなでする遊びを考えたいというような一見算数とは関係ないようなことが算数につながっていくようになっていきます。身近な生活に算数が生かされ、子どもたちの学びにつながっていく大切なところだと思いますし、また併せて協働的な学びも重視されているように感じました。自分の考えと他者の考えの比較検討なども提示されていて、とてもよいと思います。

それから、先ほどから出ているように、二次元コードのコンテンツが非常に豊富です。多過ぎるとしても、先生方が取捨選択しながら、よりよいものを子どもたちに提示できる

というところは東京書籍のよさだと思います。

東京書籍を採択したいと思いますが、辻委員、藤井委員、よろしいでしょうか。

辻委員・藤井委員 結構です。

教育長 それでは算数については、1番、東京書籍の『新編 新しい算数』を採択することに決定しました。

(6) 理科

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 理科については、1番の東京書籍、2番の大日本図書が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、3番の学校図書、4番の教育出版、6番の啓林館が「国分寺市で使用するのに適当である」、5番の信州教育が「国分寺市で使用するのに適当とは言えない」としました。

初めに東京書籍です。よい点として、写真がきれいでズームしたものが見やすくなっています。また、4年生で電気回路と写真がセットで示してあり、実験の方法が丁寧に説明されています。物の重さの学習など、算数との関連も図られています。

続いて大日本図書です。よい点として、音の単元の学習の実験が視覚的でわかりやすいということが挙げられました。写真資料についても大きくてわかりやすいという特徴が挙げられました。構成上として、3年生の物の重さの学習や、6年生のてこの学習が学年末になっており、算数との関連が図りやすくなっていることが挙げられました。

続いて学校図書です。単元の最初に身につけたい力が示されていること、振り返りがしやすい構成になっていることが挙げられました。一方、課題として、文章量が多く、文字が読みにくいこと、いろいろなフォントが使われていて、何が重要であるかわかりにくいことが挙げられました。

続いて教育出版です。実験の手順だけでなく、意味などについても丁寧に説明がされていることが挙げられました。また、実物大のイラストがわかりやすいということも挙げられたものの、課題として、児童の考えや教師の解説が非常に多く書かれており、児童の思考力が高めにくいということが挙げられました。

信州教育は見本本が届いておらず、調査資料がないため、国分寺市で使用するのに適当ではないとしています。

続いて啓林館です。よい点として、実験や観察に必要なもののチェックリストが載っていて、実験観察する前の準備がやりやすい部分があります。一方、課題として、フォントの種類が多過ぎて、わかりにくいといったことが挙げられました。

(意見・質疑の要旨)

藤井委員 私は教科用図書選定資料作成委員会で「非常に適当である」とされた2冊以外に、教育出版の情報量の多さ、説明の丁寧さと読みごたえから、こちらもなかなかよいと思ったのですが、最終的には大日本図書を推薦します。情報量の多さ、説明の丁寧さ、資料のわかりやすさと、最後まで科学館、博物館などが紹介されていて、裏表紙にまで自然に関心を持つきっかけになるような写真などがあり、学びから理理的な思考の広がりを自分の生活や自分の住んでいる世界に広げやすいのではないかと考え、大日本図書の『新版 たのしい理科』を推薦します。

大木委員 私は「非常に適当である」とされた2冊で迷いましたが、結果としては、東

京書籍を推薦します。

1点目に、実験や観察の方法が流れに沿って分かりやすく記載されていて、写真も大きくて見やすいという点です。

2点目に、「問題をつかもう」というところで、問題点を明確化するために話し合うという過程をつくっていて、そのほかにも、児童同士の話合いを促す箇所が多いと思いました。ヒントも出し過ぎていないため、児童の自主的で自由な意見交換が期待できる構成となっていると思います。

これに関連して3点目に、問題に対する「予想しよう」「計画しよう」も適切なヒントの量であり、児童が主体的に考えられるようになっています。

4点目に、実験や観察時の「きけん」が、毎回細かく記載されていて、安全面に配慮されていると同時に、実験や観察の方法の留意点について、しっかりと理解できると思いました。

5点目に、各単元末の「こんなところにも理科の世界探検部」という学習を深めるためのコラムが、理科好きの児童を増やす非常に優れた内容であると思いました。身近な生活から高度な応用まで幅広く、興味深い内容から構成されていて、非常に見応えのあるものであると思いました。

6点目ですが、私が個人的に、非常に高く評価した点として、5年生の「台風と天気の変化」の単元で、65 ページの上部に先生と保護者に対して、災害の写真を扱っているため、「ご指導の際には、ご配慮をお願いいたします。」と明記されています。そういった細やかな心配りも評価しました。

以上の点から、東京書籍の『新編 新しい理科』を推薦します。

辻委員 私も、東京書籍と大日本図書のいずれかがよいと思って迷いましたが、結論として東京書籍を推薦します。

写真が大きくて見やすく、図も大変わかりやすいものが使用されていると思いました。理科の教科書では、写真や図が見やすいということは、子どもたちがわかりやすいと感じるのにとっても重要な要素だと思うため、非常に好印象でした。また、各単元の導入部分が、押しつけがましくなく、すんなりした感じで、子どもたちが入りやすそうだと思います。言ってみれば導入がくどくなくて、子どもたちの学びがスムーズに進むのではないかと思います。それから、全体的に写真が美しかったり、適切だったりすることとも関連するかもしれませんが、ぜひ外に飛び出して行って、実際自分で調べてみよう、それから実験を通して、自分で実物に触れてみようというメッセージ性が一番強く感じられるものであると感じました。

富山教育長職務代理者 私も東京書籍と大日本図書、甲乙つけがたく最後まで迷いましたが、最終的には大日本図書の『たのしい理科』を推薦します。

理由ですが、理科嫌いをつくらないという印象を強く受けたためです。例えば小学3年生で初めて学ぶ理科の教科書の1ページ目を読んで感動しました。子ども達は、タンポポの花が開くときにどう違うのか、道端から家からしょっちゅう見えています。普段見ているが、さて理科的な観察力とは何かというと、観察とは同じものを、時間をずらしても見るわけで、定点観測です。このページを見たときに、子どもたちがぐっと自分の生活に引きつけられて、そして観察をする力の土台みたいなものをつくり上げていく。各学年の最初の見開きから全部そうなっています。大変素晴らしい構成だと思いました。

それから、写真が大変大きいのですが、大きい写真だからこそ、そこに観察する視点

があります。それが例えば4年生の72ページ、水たまりの写真ですが、これもしょっちゅう子どもたちは見ているし、足でも踏んでいます。それを観察していくと「水のゆくえ」という物理の最初のところが出てくるわけです。写真が大きいだけでなく、そして身近なものであるだけでなく、大きいゆえにこの水が時間を経過する中でどこに流れていくかを校庭で観察させる。子どもの身近なところからしっかり見ていくことで違いが分かる、あるいは同じであることが分かるというようなページの配列、説明の仕方、子どもたちの興味関心と目的意識をしっかりと引きつけて、理科の目的につなげるというところがよく仕込まれている教科書だと思いました。

もう1つは、実験が視覚的で理解しやすくなっていますし、算数の比例についての指導時期と揃える、いわゆるクロスカリキュラムのような視点に立った配列も大変評価できるものと判断しました。

教育長 私も東京書籍、大日本図書、そして啓林館も非常に実験観察に力が入っていると感じましたが、結論から申し上げますと、大日本図書を推薦したいと思います。委員の皆様と同意見ですが、それに加えて、大日本図書はコラムも非常に充実していて、「りかのたまてばこ」という内容で興味深いと思っています。また、さらに「サイエンスワールド」というところで、中学校で学ぶことの例示もされていて、数年間を見通した理科の学びも考えることができると思いました。コンテンツについては、両方とも500近くあり、非常に充実していると評価したいと思っています。

結論を言いますと、大日本図書を推薦したいと思います。大木委員、辻委員、よろしいでしょうか。

大木委員・辻委員 結構です。

教育長 それでは理科については、2番、大日本図書、『新版 たのしい理科』を採択することに決定しました。

(7) 生活

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 生活については、1番の東京書籍、4番の教育出版、6番の光村図書出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、2番の大日本図書、3番の学校図書、7番の啓林館が「国分寺市で使用するのに適当である」、5番の信州教育が「国分寺市で使用するには適当とは言えない」としました。

初めに東京書籍です。よい点として幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目的に、入学当初に編成されるスタートカリキュラムが、質・量ともに充実していることが挙げられました。幼児期の育ちを生かしながら、児童の思考の流れを重視した学習活動を掲載していて、12ページから13ページの「つながる・広がる」では、各教科等への学びの場面が示されています。また、生活科で身につける資質能力が中学年以降の社会科、総合的な学習の時間などにつながるようにも示されています。

続いて大日本図書です。よい点として上下巻ともにワークシートが設けられています。活動の中で児童が直書きして、消しゴムを使用しても扱いやすいように、よい紙質のものが使用されていること、各活動の振り返りの欄に気持ちマークが書き込めて、低学年も教科書を使って、自己評価しやすくなっているという点が挙げられました。一方、課題として、写真や挿絵の見にくさ、資料の使いにくさが挙げられました。

続いて学校図書です。よい点として各単元の中にある「ものしりノート」や「学び方

図かん」，巻末の資料がとても充実していて，学習を進める上で児童がヒントに使いやすということが挙げられました。一方，課題として，春と秋の町探検が連続した配列となっていて，結果に関する内容がすぐに見えてしまうという課題が挙げられました。

続いて教育出版です。よい点として，各単元の扉に「わくわくスイッチ」という記事が設けられ，単元内の学習の流れを示す役割をしていて，児童にとっては学び方そのものを身につける際の支援となり，若手教員にとっては，指導のイメージが非常に持ちやすいということが挙げられました。各単元の中に配列されている生き物図鑑や，おもちゃのつくり方，また，単元活動の際のミニ資料が巻末に設けられている資料として，しっかりと適切に連動していることが挙げられました。

信州教育ですが，見本本が届いておらず，調査資料がないため，「国分寺市で使用するのに適当とは言えない」としています。

続いて光村図書出版です。よい点として児童に人気のある絵本作家の協力を得て，親しみや興味を引き出すキャラクターを教科書の構成に大きく取り入れているという点が，編成に当たって，大きく打ち出していることが挙げられました。児童の実態に寄り添う視点が盛り込まれているとともに，活動内容が明確に示され，見通しを持たせやすいということが挙げられました。

続いて啓林館です。よい点として，教科書の規格が今使用している国語，算数，道徳の教科書と同じなので，児童が扱いやすく，取り忘れがないということが挙げられました。一方，課題として，6社中最小の型番で紙面当たりの情報量が多く，込み入った印象があることが挙げられました。

(意見・質疑の要旨)

藤井委員 私は「非常に適当である」とされた教育出版も写真が非常に見やすく児童の姿も多様性に配慮したような写真があってよいと思ったのですが，最終的には光村図書出版の『せいかつ たんけんたい』を推薦します。

ヨシタケさんのイラストを使い，イラストだけにごまかされないようにと思い，一生懸命中身も読んだのですが，巻末の付録も非常に品質のいいものを使って充実しています。分冊化できる形なので，かえって机の中がガチャガチャしてしまわないかという意見も出ていたのですが，子どもたちには興味深い資料になるのではないかと思います。

大木委員 私は「非常に適当である」とされた東京書籍と教育出版で迷いましたが，最終的には教育出版を推薦します。

理由としては，1点目に，小学校に入って初めて出会うこの新しい教科書に対して，いかに児童の興味関心を引くかということ，もちろん他社の教科書も全てそれは意識しているのですが，中でも非常に教育出版の『せいかつ』という教科書が，そこを意識していると感じました。2点目に，各単元最初の「わくわくスイッチ」というのが，学習の流れをイメージしやすいだけでなく，ゲームのような構成になっているため，児童の関心を引きやすいのではないかと，最初は自分の思うとおりに「はい・いいえ」を選択するが，恐らくすべての選択肢をたどってみて，結局はその単元で見てほしい点を知らず知らずのうちにチェックできるのではないかと思います。最後に，巻末の「学びのポケット」が他教科との関連を促す構成となっていると思いました。

以上の理由から，教育出版を推薦します。

辻委員 私は東京書籍と啓林館で迷ったのですが，結論としては啓林館を推薦します。

1つ目は、サイズがコンパクトなので、子どもたちは扱いやすいのではないかと思います、自分自身手にとってみたときに、非常に扱いやすいと思いました。その分情報量がやや多いかとは思いました。ただ、難しい抽象的な事柄ではないので、このくらいの情報量であれば許容範囲かと思った次第です。そのほか、スタートブックからのつながりもよいと思いましたが、「びっくりずかん」「がくしゅうずかん」という設定は資料の活用という点でも優れていると思いました。また、各単元3段階構造になっていて、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」と学習が進んでいくというのは児童にもわかりやすいと思いましたので、この点も評価できると思いました。

以上の理由から啓林館を推薦します。

富山教育長職務代理者 私は教育出版の『せいかつ』を推薦します。生活科が始まったときに、はい回る生活科にならないようにとよく言われました。教科書も要らないのではないかと言われましたが、教科書ができました。はい回る生活科にしないためには「わくわくスイッチ」のような導入における導きというのがやはり必要なのだと思います。そういう意味でこれは評価したいと思います。

それから、生活科は義務教育が始まった1年生、そして2年生となっていくと、1年生の教科書の内容は非常にシンプルにして、後半少しずつ難しくしていくような構成をとるのが順当だろうと思います。そういった点でも評価をしました。

また、生活科は身近なところで課題を見つけ、そこで具体的な活動を通して学んでいくという教科書です。そうしたときに周りにどういう人たちがいるのかというのは大変重要です。このグローバルな社会で、東京都を見ても、いろいろな人種の人たちがいます。教育出版の教科書は特にいろいろな人種の人たちが出てきています。多様性の中で共生するという部分を非常に意識してつくられた教科書で、これからのグローバル社会で生きる子どもたちの出発点になる生活科という面からすると、これは大変評価できるものではないかと判断しました。

教育長 私も教育出版を推薦します。写真やイラストがとてもきれいで、大きくて見やすいというものがありますし、巻末の「学びのポケット」、これは他教科とのつながりにも生かされ、このあたりの編集がよく工夫されていると思います。生活科で育てるべき資質能力がしっかりと押さえられていますし、また直接体験、ICT活用などいろいろ取り入れられています。そして先ほどの他教科へのつながりで、学びの充実につながるような編集がされていて、とても活用しやすいと思いました。生活については4番、教育出版『せいかつ』を採択したいと思いますが、辻委員、藤井委員、よろしいでしょうか。

辻委員・藤井委員 結構です。

教育長 それでは、生活については4番、教育出版『せいかつ』を採択することに決定しました。

(8) 音楽

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 続いて、音楽について報告をさせていただきます。音楽については、2番の教育芸術社が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の教育出版が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

初めに教育出版です。よい点として写真の扱いが美しいことが挙げられました。5年生の教材「こいのぼり」で、見開きで大きく美しい写真が取り上げられており、世界観とし

て広がりがあることが挙げられました。一方、課題として、技能的に難しく長い曲が取り上げられていることが挙げられました。

続いて教育芸術社です。4年生 38 ページを御覧ください。旋律が重なり合う面白さについてまず歌ってみて、歌唱で旋律の重なりを確認し、その後ファラドールを鑑賞し、同じように旋律の重なりについて学習します。その後、演奏につなげる、というように同じ曲の取扱いについて、器楽、歌唱、鑑賞という形で重ねて押さえていくことで、知識や技能の定着を確実にしていこうとするよい点が挙げられました。

(意見・質疑の要旨)

辻委員 教育出版の『音楽のおくりもの』の報告内容の中で「中高学年には技能的に難しい曲や長い曲がある」とあったのですが、その難しさというのは指導上の工夫で乗り越えられるものなのか、かなり難しいものなのか、そのあたりを教えていただきたいと思います。

調査研究委員会委員長(音楽) 乗り越えられないということはないと思いますが、個人差があり、乗り越えられるが、指導に時間がかかるかもしれないということはあるかと考えています。

辻委員 音楽に苦手意識を持ってしまっている子にとっては、つらいという御判断ですか。

調査研究委員会委員長(音楽) 乗り越えればもちろん達成感が味わえるのですが、音楽は学年が上がっていくと時間数が少なくなってきます。そのあたりのことも考えるとはじめからハードルが高いものをあえて持ってくるのはどうかという意見が出ました。

辻委員 ありがとうございます。

藤井委員 私自身、恐らく小学校の高学年の頃はハードルを乗り越えるのに苦労しながらも、音楽の授業が好きだったので楽しんでいました。そういう観点からすると、教育芸術社は、情報量の多さと言葉の多さが黒丸で示されていたのですが、逆に言うと、感覚的な次元の理解が難しいときに、言葉があると、こういうところに気をつけるのだ、次はここに気をつけてやってみようというヒントを与えてくれるのではないかと考え、私は教育芸術社を推薦します。

大木委員 私も教育芸術社の『小学生の音楽』を推薦します。

理由として、1点目に、選曲が発達段階や技能の熟達の程度を考慮されていて、児童が学びやすいだけでなく、先生方も指導しやすいのではないかと思います。それから2点目に、教科書上の情報量が多いとありますが、私としては適切ではないか、かつ、二次元コードが充実しているため、さらに多くの情報や知識が得られるのではないかと思います。写真が少なく、イラストが抽象的だったり、アニメのようだったり、曲のイメージを膨らませづらいところがあることが課題として挙げられていましたが、写真や具体的なイラストが多過ぎると曲のイメージが固定されてしまう可能性もあるのではないかと、むしろイメージを膨らませにくいゆえに柔軟な展開ができる余地があるということもよいと思いました。

以上、総合して、私は教育芸術社の『小学生の音楽』を推薦します。

辻委員 私は教科書を書物として手にとったときは、教育出版の『音楽のおくりもの』が非常に優れていると思い、ぜひ子どもたちにこれを見てもらいたいという思いがありました。写真やイラストがとても美しかったり、優しかったりで曲のイメージを膨らませる

のに適していると思えました。これは音楽の授業で非常に大切なことだと思います。また、構成としても開いたときに左側に楽譜、右側に資料の説明というのもわかりやすく、すっきりしていて良いと思えました。しかし、技能的に難しい曲や長い曲があるという点は、先ほどの回答で乗り越えられなくはないということでしたが、そこを敢えて頑張っ、万が一にも音楽が嫌いな子をたくさん生んでしまっ、はいけないという懸念は非常に強くあります。

小学校の音楽ではみんなで歌ったり、合奏したり、聞いたりすることが楽しいと思、長い人生の中で音楽と豊かに関わってもらっという基礎づくりの段階であることを考えると、この黒丸を見落とすわけにはいかないと、少し残念な思もあります、ここは教育芸術社の教科書を採択すべきであると思えました。結論としては教育芸術社です。

富山教育長職務代理者 私も教育芸術社の『小学生の音楽』を推薦します。

理由としては、各ページを開くと、教材特有の観点が示されています。どの教科でもそうですが、今日は何をするのかという学習課題が明確になっていることは大きなことだと思います。そういった面で、観点が示されることはとても大きなことで、活動後の自己評価にもつながるため、評価したいと思、2つ目は、構成が左に楽典、右側に音楽の要素を固めて説明してあるという構成でページは進んでいきます。これも学ぶ側にとっては非常にシンプルで分かりやすいということも評価したいと思、加えて、音楽は自分でも、周りとも合わせて、楽しむというのが大きな要素になってきます。そうすると、学習の流れをみんなで共有できるので、それを示してあるのも教育芸術社のよいところだと思、推薦しました。

教育長 私も教育芸術社を推薦します。ただ、教育出版にも国分寺市出身のバイオリニストである庄司紗矢香さんの写真が写っていますし、少し惹かれる思もあるのですが、皆さんの同意を得て、教育芸術社を採択したいと思、よろしいでしょうか。それでは、音楽については、2番、教育芸術社『小学生の音楽』を採択することに決定しました。

(9) 図画工作

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 図画工作については、1番の開隆堂出版、2番の日本文教出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」としました。

初めに開隆堂出版です。よい点として、「知識・技能」、「思考」、「学びに向かう力」を表したキャラクターがあり、目次の中で、その3観点及び平面や立体工作、鑑賞、造形などバランスよく配列されていることが挙げられました。一方、6年生になるまで人物を描く題材がないことが系統的な指導の面で課題があると挙げられました。

続いて日本文教出版です。よい点として子どもたちがつくった作品例があるので、どのようなことを学習するのか、児童がイメージを広げやすいということが挙げられました。一方、課題として、児童にとって文字が小さいこと、「学習のめあて」の文言が難しい表現になっていることが挙げられました。

(意見・質疑の要旨)

教育長 開隆堂出版の説明で、6年生になるまで人物を描く題材がないことが系統的な指導の面で課題があるというお話がありましたが、致命的な課題ですか。それともそれほ

ど気にすることはないのでしょか。

調査研究委員会委員長（図画工作） 特に日本文教出版が系統的に人物を描く題材を取り扱っているかという点ではないので、問題はないと思います。

教育長 若干気になるという点ですね、ありがとうございます。

藤井委員 どちらも甲乙つけがたいと考えましたが、日本文教出版のほうが、子どもたちが、自分が実際につくる作品についての例があって、具体的に自分が今からつくろうという方向性がイメージしやすいことから、日本文教出版を推薦します。

大木委員 私も同じく、日本文教出版の『図画工作』を推薦します。

理由としては、1点目に作品例が多く、児童がイメージを持ちやすいということです。さらに、それに誘導されることなく、多様なイメージを膨らませることができる構成になっていると思います。恐らく先生方も指導しやすいのではないかと思います。

それから2点目として、鑑賞といっても、どうすればいいのか分からない児童もいます。しかしあまり多く情報を提示すると、それに縛られてしまう。その鑑賞のポイントが一言提示してあるのもよいと思いました。また、多様な活用の仕方ができるアートカードをはじめとした資料がとても充実している点も非常によいと思いました。

それから、最後に「気をつけよう」というポイントが全学年にわたって毎回書いてあり、安全面に十分配慮されていると思いました。以上の理由から日本文教出版を推薦します。

辻委員 私も日本文教出版を推薦します。まず見開きでパッと開いたときに学習する内容が分かりやすい点が良いと思いました。それから「教科書美術館」で取り上げている内容がバラエティに富んでいる点もよいと思います。この中には伝統的な作品だけではなく、例えば3、4年生の上巻では土の色を取り上げていて、日常の中で目をつけない点にも、子どもたちの目が向くようになっていてよいと思いました。使われている写真も美しいと思いました。

それから巻末に「材料と用具の引き出し」がまとまって載っているのも使いやすそうだと思います。さらに、1、2年生の上巻に幼児期からのつながりを導入していくページがありますが、そこに工夫が見られていてよいと思います。

富山教育長職務代理者 私も同じく日本文教出版の『図画工作』を推薦します。

理由は皆さんと同じですが、さらに加えますと、教科書の中に児童作品の紹介があります。国分寺市の小学校の児童作品が表紙になっているのも、この中にあるようです。子どもたちは、テーマを設けて何かを描こうとしたときにいろいろ思いをめぐらしますが、そのときに同年代の人がどのようなものをつくっているかというのは非常に参考になります。もちろん同じものをつくるのではなく、それからヒントを得ながら、新しいものを創造・創出していくわけですが、教科書の中にも児童の作品がたくさんありますが、さらにこの二次元コードを見ると、全国のいろいろな学校のいろいろな作品が出てきます。これを見ると、自分でつくりたいものというイメージがさらに膨らんだり、あるとき壊されたり、またひっくり返されたりしながら、イメージが取れんされて自分のものをつくれるようになっていく、そういう思考作用が、この二次元コードによって促進されるのではないかなと思うため、大変素晴らしいことだと感じました。

さらに、先ほど辻委員がおっしゃったように、巻末に「材料と用具の引き出し」というのがありますが、図画工作は教えられるというより、自分で考えて判断してつくり上げていくという主体的な創造をさせていくわけです。そのときに考えたものをどうつくるか

というときには、そこに材料や、道具、あるいは危険なものがあるわけです。そういうものが、きちんとそれぞれの巻の最後にまとめられているのは、高く評価したいと思います。

また、子どもたちの制作活動を見てみますと、今までプラスチックのものでつくっているというのが大変多かったと思います。SDGsの時代、循環する社会をつくる中で、その制作する材料を循環するものの中から求めていくというのが、これからの図画工作の1つの道ではないかと私は考えます。そうしたときに、この日本文教出版の教科書では、大幅にプラスチックの材料を減らした教材を用いているようです。これも高く評価したいと思います。さらに、本市でもこの教科書を使っています。小学校の学習発表会に行き、先生に伺ったところ、このような素晴らしい文化祭の展示ができるのは、教科書の役割が大きいということを書いていました。そのため、日本文教出版の『図画工作』を推薦します。

教育長 私も同意見です。子どもたちの作品の例示が非常に豊富で、主体的な学びを支える教材になっていると考えます。ただ1点、気になったのはコロナ禍ということもあるのでしょうか、マスクをしている子どもの写真が、日本文教出版は多く、開隆堂は全てマスクが外されて、子どもたちの表情が見えるところですが、この時代だからということで理解をしたいと思います。

それでは、図画工作については、2番、日本文教出版『図画工作』を採択することに決定しました。

(10) 家庭

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 家庭については、2番の開隆堂出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

まず、東京書籍です。よい点として二次元コードで紹介されている動画が丁寧でわかりやすく、左利きの手順が動画の中でもフォローされていることが挙げられました。一方課題として、ミシンの学習が5年生のかなり最後の方に配列されており、2学期に配列されている方がよいということが挙げられました。

続いて開隆堂出版です。よい点として、生活の見方・考え方の4つの視点があります。例えば38ページを御覧ください。ここに四つ葉のクローバーのマークがあり「健康・快適・安全」「生活文化」の4つの視点が表示されており、主体的に学ぶような構成がされています。

(意見・質疑の要旨)

大木委員 開隆堂出版の調査内容報告のAの②のところで「イラストの人権が配慮されている」とありますが、こちらはどのような話合いがあったのか教えてください。

選定資料作成委員会委員長 多様性に富んだ子どもたちのイラストが使われているということです。東京書籍も、例えば14ページを見ていただければと思うのですが、多様性がないわけではなく、きちんと配慮されて、イラストがつくられていると思いますが、開隆堂出版のほうが、より明確に打ち出されていたため、ここに挙げさせていただきました。

大木委員 東京書籍でも配慮はしているが、開隆堂出版のほうがより明確だったということですね。

藤井委員 うちの子どもたちが学校に通っている頃に、よく話題に出てきたのですが、体育の技術などでも、なかなか左利きだとお手本を見せてもらうということが難しいようです。参考までに、教科書から動画のリンクに素早く移動ができるスタイルが可能になってきたことにより、例えば左利きへの指導とか、家庭科の実習などで、非常に役に立った、あるいはこの科目では動画があることが助かったというような現場の声があれば、教えてください。

調査研究委員会委員長(家庭) 例えば包丁の使い方で、左利きの児童がいた場合に、教員も、右利きの教員が多いため、タブレット等で二次元コードを開いて、左利きの持ち方、右手の手の押さえ方を見ると子どもたちがすぐ理解するため、調理実習前の確認にも使うことができます。

藤井委員 少し教科書から発展してしまうかもしれませんが、左利き用の包丁というのは一定程度、学校の調理実習では設置してあるのでしょうか。

調査研究委員会委員長(家庭) 量は多くはないですがあります。同じように左利き用の裁ちばさみも用意しています。

藤井委員 左利きの話では、東京書籍にひかれるのですが、全体のバランスのよさ、細かい分析、今の4つの視点というところが教材として、非常に優れていると考えましたので、開隆堂出版を僕は推薦したいと思います。

大木委員 私も同じく開隆堂出版を推薦します。東京書籍の教科書も非常に魅力的でしたが、総合的に判断いたしました。1点目に、ステップ1で「なぜこれこれだろう」とか「これこれなんだろう」という見出しから開始しており、児童の自発的な問題意識を促すことができると思いました。

2点目、各単元最初の「学習のめあて」で、その単元で学ぶことが明確になっています。そして、最後のステップ3において、多くの単元で日常生活への応用を意識できる内容となっています。特に家庭科は学習したことを家庭や地域で実践することが大切ですので、これを念頭においた構成が強調されていると思います。また、実習においては「できたかな」というチェック欄が1つ1つの課題において、細かく書いてありますので、児童が細かく1つ1つ確認することができると思いますし、全ページの下にある「豆知識」は、児童も楽しみながら知識を身につけることができるだろうと思います。それから、キャリアインタビューも充実している点を総合的に判断して、結論として開隆堂出版を推薦します。

辻委員 私も藤井委員と同じで、左利きの動画には非常にひかれるものがあるのですが、結論としては開隆堂出版を推薦します。

目次の前の導入で、他教科とのつながりを示しているのは、素晴らしいと思いました。家庭科は児童にとって、初めて出てくる学びの項目ですが、これは決して新たなことではなく、これまでの生活や学習と密接に関わっていて、これまでしてきたことをよりよくするとか、人にしてもらっていたことを自分でもできるようになるという意識を持って学習を始めてもらえるという点がいいと思いました。また、各単元の説明の中に「安全」「環境」「伝統」「消費」などのアイコンで視点を示しているのもわかりやすいと思いました。また、調理の手順は少し情報量が多いように感じましたが、直線的に内容が仕切られているので、分かりにくくはないと思いました。また、ソーイングで取り上げている作品が実用的で、子どもたちの満足感が大きいのではないかと思ったのもよい点です。

富山教育長職務代理者 私も開隆堂出版の『わたしたちの家庭科』を推薦します。

理由として「教える教科書」というよりは、はっきりと「問題解決型の教科書」として構成されているのが非常に評価できると思います。「気づく」「見つける」「わかる」「生かす・深める」という流れで問題を解決するとともに、生活に生かしていくという出口の先までを見通した教科書の構成が大変よいと思いました。もう1つは、二次元コードがおよそ全ページの見開きの上であり、ここを開いてみると、本当に短い動画が載っています。コンテンツに従って開いていくと、エンジンの切り方も私は駄目だったと反省をしたのですが、文字で書いてあるレシピとつくり方よりも、15秒の動画を見たほうが材料とか、切り方とか、調理の道具とか、調味料をどれだけ入れるか、どの時点で入れるのかということが明瞭にわかります。これを文字で表現すると大変長く読んでいかななくてはなりません。でも、それが15秒ぐらいで、全部分かるというのは、子どもたちにとっては魅力のある情報源ではないかと思い、新しい形の教科書の1つだと思い、評価をしました。それから、短い20字か25字ぐらいで「豆知識」があるのも、教えられるというよりは、学習者の目が止まって入ってくる量であり、しかも分かり易い内容であると評価いたしました。

教育長 私も開隆堂出版を推薦します。特に実習の内容なども、図や写真、イラストを使って、本当に丁寧に説明されていて、また先ほどお話があったように動画が短い内容でわかりやすく示されています。これは専科教員だけではなく、学級担任が指導する際にも使いやすい内容になっていると感じました。

それでは、家庭科について確認をしたいと思います。家庭科については、2番、開隆堂出版『わたしたちの家庭科』を採択することに決定しました。

(11) 保健

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 保健については4番の大修館書店、5番のGakkenが「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、1番の東京書籍、2番の大日本図書、3番の文教社、5番の光文書院が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

東京書籍です。よい点として、ワークシートが一体化されていて、誰でも同じ流れで授業を進めていくことができること、また、単元ごとのまとめがあることが挙げられました。一方、課題として、記述の量が非常に多く、特に高学年において1単位時間の中で追うことが難しいであろうこと、またグラフなどの資料が少ないということが挙げられました。

続いて大日本図書です。よい点として、イラストやグラフが多く、資料として、よく使えること、文字が他社と比べて大きく書かれていて、振り仮名も振ってあること、1単元の学習が見開きでまとまっているため、指導しやすいことが挙げられました。一方、課題として、記述量の少ないことが、挙げられていました。

続いて文教社です。よい点として、毎時間のめあてとまとめが明記されているということが挙げられました。一方、課題として、情報量が多く、書き込みが少ないこと、教科書が他社と比べて非常に厚いことが挙げられました。

続いて大修館書店です。よい点として、学習のめあてが、明確に書かれており「課題から調べてまとめる」「考えよう」「話し合おう」という学習の流れが記載されている上で、見開きで指導内容、資料や発展的な内容と、2～4ページで1つの単元がまとまっていることが挙げられました。また、記入のスペースが1冊で完了するため、ワークシートを印刷する必要はないことや、他社と比べると色や絵が柔らかく写真やイラストの分量も非常

によいことが挙げられました。

続いて公文書院です。よい点として「広げよう」「深めよう」といった発展的な内容が載っていること、見開ページで1単位時間の学習が完結し、書く分量もちょうどよいということが挙げられました。一方、課題として、ワークシートがないため、ページ数が少ないこと、また特に3年生、4年生において課題をつかむための情報としてのスタートの導入の段階で、全てのページで、ページを開けると課題が見えてしまうことが挙げられました。

続いてGakkenです。よい点として、自分の振り返りから次の課題を捉える資料があるため、誰でも同じような進め方ができるということが挙げられました。また、資料が多く、イラストの統一感があるということも挙げられました。一方、課題として、記述欄が多くて、1単位時間の中で終わることが難しいことが挙げられました。

(意見・質疑の要旨)

辻委員 Gakkenの『新・みんなの保健』の、観点A内容の中の、黒丸の1つ目で「大切な部分、キーワードが黒塗りしていないために見にくい」とありますが、内容がよく分からなかったので教えてください。

調査研究委員会委員長(保健) 太字で扱っているところのフォントがいまひとつわかりづらいところがありました。

藤井委員 大修館、Gakken、どちらも甲乙つけがたいと思ってこの2つを見ました。Gakkenは高学年の教科書の出だいで、心の不調にまつわることに連動して、学校以外の相談先の電話番号が書いてあり、あるいは、自分の心の不調のときに、こんなストレッチがあるというような、より実践的な指導ができるような形になっている点でよいと思いました。その点、文教社も日常の中で、こういうところに気をつけるとか、相談先の具体的な電話番号が示してあるといった工夫はなされていたのですが、小学生の段階で使う教材としては、Gakkenのほうがより最適と考えて、Gakkenの『新・みんなの保健』を推薦します。

大木委員 私も、非常に適当であるとされた大修館書店とGakkenの間で非常に迷いましたが、結論としては、Gakkenの『新・みんなの保健』を推薦します。

1点目に、予想や振り返りから始まるので、テーマが身近なものとして捉えやすい点。2点目に、話合いの課題が充実していて、児童の協働する学習にも適しているだろうという点。3点目に、課題として挙げられた書く分量が多いということですが、その分理解を深めることもできるのではないかという点。そして4点目に、資料が非常に充実している点。最後5点目に、4年生の第二次性徴の説明がわかりやすく、特に個人差に充分配慮した表現になっている点。それから、45 ページで性の多様性について、しっかりと場所をとって、説明をしていること、ここは私が最も評価した点です。5年の心の健康における説明量や内容、対処法に関しても、心理を専門とする者からしても適切です。これはほかの大修館書店も非常によかったですし、東京書籍もよかったです。こちらもGakkenもとてもよかったです。

以上、総合的に考えて、私はGakkenの『新・みんなの保健』を推薦します。

辻委員 私もGakkenの『新・みんなの保健』を推薦します。全体的に情報量が適切で見やすいと思いました。また、発達に個人差があることがわかりやすく記載されているのは重要な点ですし、これが記載されていることは高評価したいと思いました。

最後に、私も「性の多様性」については、ぜひとも教科書で取り上げてもらいたい点だと思います。具体的に言うと、東京書籍の書き方が一番よいとは思ったのですが、総合的に見てGakkenの記載は、文章だけで子どもがよく理解してくれるかという一抹の不安はありますが、性の多様性について否定的でなく、事実として書かれている点が評価できると思いました。国分寺市は「すべての人を大切にするまち宣言」をしていますし、パートナーシップ宣言はそれよりも先立ってしていますので、ぜひとも発達に差があること、人はそれぞれ違いがあることと、それから、その中でもとりわけ性の多様性というのは非常に大事な問題で、そういうことがあるのだということを、子どもたちに早い段階から知ってもらうことは大事だと思いますので、この2点について記載が漏れなく書かれているGakkenを推薦したいと思います。

富山教育長職務代理者 私もGakkenの『新・みんなの保健』を推薦します。

理由として、いわゆる「個別最適な学び」が求められている中で、この教科書では各題材の始めに、今までの自分のことを振り返ってみようという欄があって、そこに自分の課題に関する考えを書いていくところから学びがスタートしています。保健で学ぶ教科の目的は知識を身につけるということも大事ですが、自分という身体や心の健康から出発していくという問題意識や課題意識がないと学びが自分のものになっていかないという特質を持った教科だと思います。そういった点でこういう学びの流れを教科書の中で示して行って学んでいくということは大変大事なことだと思います。

もう1つは、教科書とワークシートを一緒にしないほうがいいのか、したほうがいいのかというのは、議論が分かれるところだと思います。確かに一緒にすると扱いに時間がかかると思うのですが、教科書を見たときに、自分の心や身体の成長の段階やプロセスが1年間で見えてくるというのは、子どもの自己の確立という面からして、大変大事なことだと思います。少し大変かもしれませんが、ワークシートと一緒にしている教科書を推薦させていただきました。

教育長 書くスペースが多いという指摘もあるようですが、国分寺市の子どもたちならしっかりと書くことができるのではないではないかと思えます。

それでは、保健については、Gakkenの『新・みんなの保健』を採択することに決定しました。

(12) 外国語（英語）

（選定資料作成委員会委員長からの説明）

選定資料作成委員会委員長 英語については、1番の東京書籍、2番の開隆堂出版、3番の三省堂、4番の教育出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、5番の光村図書出版、6番の啓林館が「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

初めに東京書籍です。よい点として、4技能のバランスがよいということ、多文化の理解に関する内容も多く盛り込まれているということが挙げられました。一方、課題として、レイアウトの部分で見づらいことが挙げられました。

続いて開隆堂出版です。よい点として、1単位時間、又は単元の中で、活動や学習展開がわかりやすく、活動のテンポがバランスよいものであること、情報がたくさんありながら、日本語による説明がしっかりとされて、丁寧であることが挙げられました。一方、課題として、情報量が多いこと、他社と比べると写真が少ないことが挙げられました。

続いて三省堂です。よい点として、文法ごとの単元が工夫されているため、その文法

を学ぶことや慣れ親しむことに関する構成がしっかりしていることが挙げられました。一方、課題として、5, 6年生にとって、内容が少し簡単であることが挙げられました。

続いて教育出版です。よい点として、内容が適切であること、また、写真やイラストが豊富であることが挙げられました。一方、課題として「書く」「話す」「聞く」「読む」の4つの技能に関して、特に書くという活動が、量として足りないということが挙げられました。

続いて光村図書出版です。よい点として、活動に関して、必ず二次元コードがついていて、ICTの活用を積極的に取り入れていることが挙げられました。一方、課題として、中学校に向けた内容の単元がないことが挙げられました。

続いて啓林館です。よい点として、児童一人ひとりが活動するに当たって、ヒントが多く掲載され、学習の助けになっていることが挙げられました。一方、課題として、文字が小さいこと、書く活動が占める割合が少ないことが挙げられました。

(意見・質疑の要旨)

藤井委員 私は開隆堂出版の『Junior Sunshine』を推薦します。日本語による説明の丁寧さがあって、語学は反復学習が必要になると思いますが、家に帰ってからも、復習がしやすく、そして、デジタル教科書も充実していて、多角的に反復練習をする教材としては『Junior Sunshine』が適していて、附属の『Word Book』についても、生活の中で実践的で、子どもたちが興味を持ちやすそうなものがうまくまとまっていると考えました。

大木委員 選定資料作成委員会で「非常に適当である」とされた4社のうち、開隆堂出版と三省堂で非常に迷いました。結論としては開隆堂出版を推薦します。

理由として、1点目に、各単元の最初にゴールが記されていて、目的やめあてが明確であるということ。2点目に、最後の振り返りのチェック欄、あるいは「CAN-DOチェック」で自分の理解を確認でき、さらに、自分が頑張ったことや、次のレッスンで頑張りたいことを自ら文字で記述することで、自分の学習の成果の確認や今後の目標をより明確に自覚できるのではないかと思います。3点目に、書くことに関しては、英語はこの段階でかなり個人差が出てきていると思いますが、「I like」や「I can」などがすでに印刷されているため、児童の書くことに対する負担感を減らして、英語が苦手だという意識が減るのではないかと思います。それから4点目、4技能がバランスよく配置されているということ、そして5点目には、二次元コード、デジタル教科書も充実しているという点が挙げられます。両社とも非常に優れていたのですが、先ほどまで本当に迷っていたのですが、あえて言えばということで、今回は開隆堂出版の『Junior Sunshine』を推薦します。

辻委員 私も開隆堂の『Junior Sunshine』を推薦します。まず、日本語による説明が丁寧であるということは英語嫌いをつくらないためには大事だと思いました。小学校段階では「分かりやすい」「分かった」という気持ちを大事にしてもらいたいと考えるためです。

また、教科書に書き込むべきか否か、議論が分かれるところだというお話が出ましたが、多過ぎるとドリルをやっているかのような気持ちになってしまうと思うのですが、開隆堂出版の教科書は書き込みの箇所の量が適切で、多過ぎることがなく、良いと思いました。それから、『Word Book』という辞書というか、資料集のようなものが学年

ごとについているのも充実していてよいと思いました。これは子どもたちが授業以外でも「何々って何て言うのかな」と眺めたりして、興味関心を深めるという点でぜひ活用してもらいたいと思いました。

富山教育長職務代理者 私も開隆堂出版の『Junior Sunshine』を推薦します。

理由として、小学校3、4年生の外国語活動から、今度は聞く・読む・話す・書くことの4つの言語活動を提供する5、6年生の教科書の有り様といったときに、4つの言語活動をそれぞれバランスよく配列しているというのは、評価する点の1つです。書き込みの量はどれくらいが適切なのかについては大変難しいところですが、この程度であれば、多すぎず少なすぎずよいのではないかと評価をしました。

また、「教科書を」覚えるという形ではなく、「教科書で」という学習する1つの材料として、捉えることを考えたときに、この教科書から発展するような部分があるところとよいと思い、二次元コードを開いてみました。すると、漫画のような短い動画で、大変楽しく面白く、何回も繰り返して勉強ができ、これを見ると英語嫌いが出てこないだろうという感じを持ちました。学校の授業では二次元コードの全部は扱えないと思います。しかし、幾つかが扱われて、自分で興味を持ったら二次元コードを引き出して、その中でまた自分で楽しんでいくという学びの発展が期待できるという評価をしました。

それからもう1つ、少し気になったことが、英語というのは世界英語で、アメリカ語でもなければ、イギリス語でもないわけです。世界英語という形で教科書は編集されているのですが、12ページに主な登場人物があり、11人出てくるのですが、そこにアフリカ系の人が1人もいませんでした。そんな初歩的なミスはしないと思い読み進めたところ、20ページの「世界の子どもたちの自己紹介の様子をみましょう。」のアメリカのところにはアフリカ系の女性のミリアさんが出てきます。こういう形でバランスをとっているのだと思いました。さらに、日本に来ているALTの先生が出てくるのですが、1人はヨーロッパ系の方で、もう1人はアジア系の方だと思います。そういう形で全体的には、世界の多様な人々と共生するという意味合いが、教科書の中にきちんと出ているので安堵しました。以上の理由で開隆堂出版を推薦します。

教育長 皆さん開隆堂出版ということです。英語は最近ではデジタル教科書を非常に多く使用していて、そこも評価の1つになるかと思います。三省堂もデジタル教科書の内容が非常に豊富で、高い評価を私もさせていただきましたが、開隆堂出版も同様であるということで、そのほかについては皆さんと同じ意見を持っています。

それでは、外国語（英語）については、2番、開隆堂出版の『Junior Sunshine』を採択することに決定しました。

(13) 特別の教科 道徳

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 道徳については1番東京書籍、3番光村図書出版が「国分寺市で使用するのに非常に適当である」、2番の教育出版、4番の日本教出版、5番の光文書院、6番のGakkenが「国分寺市で使用するのに適当である」としました。

初めに東京書籍です。6年生の教科書93ページをお開きください。よい点として、「問題を見つけて考えよう」のところで、「心情円」という考えるツールが示されていること

が挙げられました。そのほかにも「心情スケール」や「心のメーター」「心の地図」が取り上げられています。一方課題としては、目次のテーマが黒い文字で表記されていてわかりにくいということが挙げられました。

教育出版です。よい点として、道徳での1単位時間の学習の流れについて分かりやすく記載されていること、語いの注釈が非常に豊かであることが挙げられました。一方課題として、各学期と1年間の学習の振り返りがあり、毎時間の振り返りを行っていることから、扱いが難しいということが挙げられました。

光村図書出版です。よい点として物語の読み物資料が多く、児童が心情を反映できる話が非常に多く掲載されていること、学習の後で他教科や領域等につなげられるような視点多く載せられていることが挙げられました。左下の「つなげよう」を読んで、社会科の学習でも振り返ってみるといふ点が挙げられています。一方課題として、巻末の「学びの記録」について、広げて学習するものになっていて、学期ごとのシールを貼るといふことですが、扱いが難しいということが挙げられていました。

日本文教出版です。よい点として、教材の下に主人公や登場人物を挿絵で示していることから、わかりやすいことが挙げられました。一方課題として、「道徳ノート」が別冊であり、指導者によっては扱いに苦慮することが挙げられました。

光文書院です。よい点として、思考対話ツールの例があり、わかりやすいということが挙げられました。一方課題として、漫画、アニメ調の教材が非常に多く、展開における話の順番が児童には捉えにくいということが挙げられました。

Gakkenです。よい点としては、事実に基づいた教材、又は、近年話題となっているような教材が、非常に多いということが挙げられました。一方課題としては、イラストの上に文字があって、文字が読みにくいこと、教材名の下に表記してある一言が児童にとって内容項目につながることを書かれているので、先入観を持ちやすいということが挙げられました。

(意見・質疑の要旨)

辻委員 東京書籍の巻末についている「心情円」について、これは実際の授業の中で、かなり活用されているものなのではないでしょうか。

調査研究委員会委員長(道徳) 活用頻度は教員によって様々ですが、子どもたちが登場人物の心の中を考える上での思考ツールとして、近年では結構、活用頻度は高くなってきています。

辻委員 例えば教科書についていなくても、活用することは可能ですか。

調査研究委員会委員長(道徳) 心情円自体を教員が知っていればよいのですが、若い先生方が非常に増えてきて、そのような思考ツールを知らない教員が多い現状があるため、心情円があることによって教員が活用しやすいということはありません。

藤井委員 私は3番の光村図書、『道徳 きみが いちばん ひかるとき』を推薦します。よく仕事で聞かれるのですが、国語で物語を読むときと、道徳で物語を読むときの違いというような話になったときに、国語として読むときは、まず書いた人が何をどう表現しているのかという視点を重視して、まずは向こうが言っていることを受け止めること。もちろん、その発展編として、最終的にそれを受け止めて、私がどう考えたのかという側面も国語の中にはあります。

道徳的な読み方に関しては、特に登場人物が設定されている物語を読むときに、もち

ろんその登場人物の心情や性質は、作者が構成したものとして、国語では読みますが、道徳的な読み方においては、読んだ本人が「もし自分だったらどうか」というような読み方をしながら他者を理解していくという側面が、中核にあるのではないかと考えています。

光村図書が「泣いた赤鬼」であったり、あるいは「エルトゥールル号」の話であったりと、普遍的な話があったり、ある特定の時代の話があったり、「マザーテレサ」など異文化圏の人の話が出てきたりというような形で、子どもたちが他者というものを受け入れるための多様性が最も全体の中で優れていたのではないかと考えて、光村図書出版を推薦したいと考えます。

大木委員 いずれの教科書も非常によい教材を取り上げていて、ついつい読み入ってしまいました。いずれも甲乙つけ難かったのですが、総合的に私は東京書籍を推薦します。

理由としては1点目に、視点が、各課題に提示されていることで、どういう点を特に見ていきたいかというそれぞれの教材の位置づけが分かりやすいと思いました。

2点目に、特に分かりやすく発達段階に応じて、児童が自ら考えを深めやすい構成となっていると思いました。最後の「考えよう」というのは、文章を読んだ上での読み取り、あるいは登場人物の考えを問うていて、そして、今度は自分の経験を振り返って、自分の考えを問う発問もなされています。分量も適切です。

3点目に、一番大きな評価の理由は、うまく言葉で表現できない児童も、それぞれの最後のページの考えるためのツール「心情スケール」「心のメーター」「心の地図」、そして「心情円」を参考にして、自分の気持ちを整理し、あらわすことができるのではないかと。そして先生方においても役に立つのではないかとということです。

以上をもちまして、東京書籍を推薦します。

辻委員 私も光村図書出版と東京書籍、いずれもがよいと思って非常に悩んでいたのですが、「心情円」の現場での活用がどの程度あるか、本日確認してから決めようと思って臨みました。その結果、先ほどの回答にあったとおり、これがあることによって経験のまだ多くない先生方でも授業が行いやすく、子どもたちが自分の考えを伝えやすいという意味で、非常によいのではないかとという前向きな回答をいただきましたので、その点から東京書籍に決めました。

両社ともイラストやレイアウトに統一感があって落ち着いた印象を受けました。道徳の授業は、1人1人がじっくり考える教材というのが重要なポイントだと思いますので、その点いずれも優れていると思いました。

「心情円」などを使って、言葉で表すのは難しいが、自分なりに考えている子が、それを発表する機会というのをぜひとも活用していただけたらという願いを込めて、東京書籍を推薦します。

富山教育長職務代理者 私も同じで、東京書籍の『新しい道徳』を推薦します。推薦に当たってはかなり迷いました。道徳の教科書の場合、子どもの心に染みるようないい教材がどれだけあるかということが最大のポイントだと私は思います。光村図書出版と東京書籍を比較しますと、本当に甲乙つけがたい、よいものが入り入れられているという実感ですが、最終的にはどちらか決めなければならないため、東京書籍がよいという判断をしました。

資料を助ける、教材を助ける意味合いで、東京書籍の手描きの挿絵が、非常にマッチしたものが多いという印象を受けました。アフガニスタンを助けた中村哲さんの1枚絵は本当に中村医師の熱いものを表しています。写真だとなかなか分からないが、手描きの絵

になると熱い気持ちがあふれてくるというのをしみじみ思い、手描きの挿絵も、資料を理解するために助ける重要なポイントであり、それがうまく生かされている点は、東京書籍の評価できる場所だと思いました。

もう1つは「考える道徳」「議論する道徳」が今求められているわけですが、その中で一番大事になってくるのは、資料をどのように理解したかという資料理解の部分と、考えるところを明確化して、価値に触れていく、その内面化のところが大事な議論の焦点にならなければいけないのですが、そのためにはどうしても資料をどれだけ読み込むか、読み込めるか、感じ取れるかというのが今後の大事なプロセスになると思います。これらの視点から、それぞれデジタルコンテンツが非常に役立っていると思いました。さらに、授業を進める中でも二次元コードを利用し、資料以外のところや発問のところ、あるいは考えるところで示すということもできますし、また、子どもたちが授業を離れて、もう一度振り返ってみて、価値の内面化を図るようにもできていますし、二次元コードの持つ機能の素晴らしさはやはり大きいと思い、その点でも、東京書籍は優れているという判断をしました。

教育長 結論が出ているようですが、私は光村図書出版を推薦したいと思います。非常に読み応えのある教材、環境教材、考えさせられる教材が多く、中には「看取り」というテーマに基づいた重い教材もありますが、こういうものを通して子どもたちが深く考えられると考えた次第です。

結果としては、東京書籍、『新編 新しい道徳』を採択するというところで、藤井委員、よろしいでしょうか。

藤井委員 結構です。

教育長 それでは、特別の教科 道徳については、1番、東京書籍、『新編 新しい道徳』を採択することに決定しました。

(休憩 午後0時55分～午後1時)

教育長 議案第44号、令和6年度使用小学校教科用図書の採択について確認をさせていただきます。

国語（国語）	・・・	光村図書出版「国語」
国語（書写）	・・・	光村図書出版「書写」
社会	・・・	教育出版「小学社会」
社会（地図）	・・・	帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」
算数	・・・	東京書籍「新編 新しい算数」
理科	・・・	大日本図書「新版 たのしい理科」
生活	・・・	教育出版「せいかつ」
音楽	・・・	教育芸術社「小学生の音楽」
図画工作	・・・	日本文教出版「図画工作」
家庭	・・・	開隆堂出版「わたしたちの家庭科」
保健	・・・	Gakken「新・みんなの保健」
外国語（英語）	・・・	開隆堂出版「Junior Sunshine」
特別の教科 道徳	・・・	東京書籍「新編 新しい道徳」

以上です。よろしいでしょうか。

(採決)

以上のとおり可決（全員一致）

4 議案第 45 号 令和 6 年度使用特別支援学級教科用図書（一般図書）の採択について ＜教育長提出＞

(議案の内容と説明)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 21 条第 6 号に基づき、教育委員会で決定する必要がある。

学校教育担当課長 市立学校における教科書採択は、義務教育諸学校の教科用図書の無償に関する法律及び関連法規に則して行われます。採択要項には現在使用中の小・中学校特別支援学級用教科用図書のうち、一般図書（特別支援学校・学級用）については、特に支障があり、これより明らかに優れたものがある場合においては、採択替えを行うことができます。

各校においては 5 月 9 日から 6 月 30 日までの間、来年度の一般図書についての調査研究を実施し、7 月 7 日までに調査研究報告書を提出いたしました。7 月 28 日に開催した教科用図書選定資料作成委員会では、その報告書をもとに各校からの説明を行いました。この後、選定資料作成委員会から報告します。

御審議のほどよろしくお願いします。

(選定資料作成委員会委員長からの説明)

選定資料作成委員会委員長 知的障害特別支援学級が設置されている第二小学校、第四小学校、第七小学校、第二中学校、第三中学校では、令和 6 年度に使用する教科用図書、いわゆる一般図書の選定資料を作成しましたので報告します。

各設置小・中学校とも、児童・生徒の障害の種類、程度、能力、特性に最もふさわしい内容であるものであることを踏まえて、選定資料にまとめました。また、可能な限り系統的に編成されており、教科の目標に沿う内容の図書であることや、上学年で使用する教科用図書との関連性も考慮しています。この結果については、お手元の報告書に示されています。なお、各学校の報告書の備考欄に白丸印がつけられていますが、これは令和 6 年度から新たに加えたものを示しています。また、この資料には一般図書以外に、文部科学省の検定済教科用図書も記載しています。

以上、各設置小・中学校で令和 6 年度に使用する教科用図書の資料については全て適当であると判断しましたので、採択についての審議をお願いします。

(意見・質疑の要旨)

大木委員 それぞれの学校において、特別支援学級に通級されている児童・生徒に合わせた適切な図書を選んでいただいたものと拝察します。

1 点お伺いしたいのですが、第七小学校においては全て検定済教科用図書のみが記されています。こちらについては、第七小学校ではどのように指導しているのか教えてください。

特別支援学級設置校長会長 第七小学校では以前から自主的に作成した教材を使い、そ

れを教科書と併せて指導の中心としているので、自主作成の教材が多く部分を占めているということです。

大木委員 第七小学校の先生方が、自主的に手づくりの教材で学習を進めていることを聞き、丁寧な関わり方に感謝いたします。せっかくなので、市内の小・中学校で、情報交換をしていただいて、より有用な形で、児童・生徒にとって最適な学びとなるよう検討していただければと思います。

辻委員 実物を拝見すると、第四小学校の双葉学級の「ふしぎの図鑑」が分厚くて、内容もとても面白そうなのですが、これは1人1冊どのように使う予定なのでしょう。

特別支援学級設置校長会長 中学校でも小学校でも、ここで採択した一般図書については、授業で使うことは当然ですが、それ以外に家庭に持ち帰ったり、あるいは卒業後の学習にも役立つという形で使用しています。

辻委員 ランドセルに入れて持ち運ぶことはあまり想定されず、副教材のような形で場面に応じて、使ってもらおうということですか。

特別支援学級設置校長会長 中学校でもかなり分厚いものもありますが、学期中は学校に置いておき、必要に応じて持ち帰るという形をとっています。

辻委員 それでしたら児童・生徒の負担にもならないと思い、安心しました。ありがとうございます。

教育長 図鑑や事典など重いものは学校に置いておき、調べ学習などを中心に使うと思います。「ふしぎの図鑑」の採択は小学校6年生であり、そのような活用の仕方かと思えます。

それでは、お諮りいたします。議案 45 号、令和 6 年度使用特別支援学級教科用図書（一般図書）の採択について、一覧のとおりでよろしいでしょうか。

（採決）

原案どおり可決（全員一致）

〔協賛〕

なし

〔報告〕

（事務局からの説明）

1 令和 6 年度教育課程の編成に向けて

渡辺指導主事 令和 6 年度の教育課程の編成について報告します。令和 6 年度入学式、卒業式、始業式、終業式、修了式は、国分寺市公立学校の管理運営に関する規則に則り、項番 1 と項番 2 の記載のとおり日程となります。卒業式については、小学校は修了式の前日、中学校は 3 月 20 日に近い、20 日より前の日程に設定をしています。

次に、項番 3 の各学年の授業日数を御覧ください。次年度も、今年度までと同様、授業日数の確保や、保護者、地域の方々に教育活動を御覧いただく機会として振替休業日を設定しない土曜日の授業を年間 3 回程度設定しています。この 3 回については各校の予定に合わせて、各学期に 1 日程度の設定をしています。

項番 3 の表の下を御覧ください。昨今、国からは教育課程の編成実施に当たっては、学校における働き方改革に配慮した対応を検討することが重要であるとの指摘があり、各

学校においては、児童・生徒の実態を踏まえつつ、各学校の指導体制に見合った授業時数を設定する必要があることも示されています。

そこで次年度からは、各校に対して余剰時数については、標準授業時数に対して 20 時間程度を超えないよう示すこととしました。ただし、今後の中央教育審議会の協議結果等も踏まえて、変更することもあります。なお、感染症等の状況により、学年閉鎖や学級閉鎖があった場合は、余剰時数で対応は可能と捉えていますが、さらに対応が必要な事態が生じた場合には、オンライン授業等の対応も含めて、これまで工夫して教育活動を実施してきた経験や蓄積を生かして、柔軟に対応を検討していきます。

今後の流れとして、教育委員会定例会での報告後、校長連絡会で通知し、各学校に本格的に来年度の教育課程の作成に取りかかっていたと予定しています。

(意見・質疑の要旨)

大木委員 余剰時数ですが、資料にあるのは令和 5 年度のデータということで、例えば小学校第 1 学年、余剰時数が 120 日とありますが、これが 20 時間を超えないものということは、さらに 100 時間をカットするという話ですか。

渡辺指導主事 来年度の暦をもとに、例えば小学校 1 年生が 5 時間、小学校 2 年生が 6 時間という、機械的に計算した結果、この時間が算出されています。ここから各学校の重点的に取り組む教科、領域等で、時数が引かれていくのと、あとは、例えば、午後に個人面談や研究授業があるといった場合にも引かれていき、今年度の余剰時数の各校の平均を見ると、120 まではいかずとも、大体 50 から 60 あたりで計算したので、そこを少しずつ減らすことを来年度は示していきたいと考えています。

大木委員 承知しました。いきなり 120 時間を 20 時間まで減らすように言われたら、授業が成り立たなくなるのではないかと心配しました。ただ、今のお話でも、例えば 50、60 あるものを、20 にするということは、それぞれの学校において、授業の運営など、いろいろ難しくなる面もあると思います。先生方の働き方改革も当然重要ですが、それによって学校が混乱しても非常に問題になると思いますので、両方を兼ね合いながらうまくお進めいただければと思います。

辻委員 私も同じ話で、働き方改革との関係で、余剰時数を 20 時間程度まで減らすというのは、減らしたものは、子どもたちと一緒に学校にいる時間には充てないということですか。それとももっと授業時間のゆとりとして使ってよくて、今まで終わらないから大変と期末に焦っていたようなことがなく、ゆっくり授業が進められるようになると、そういう意味での改革もできるのでしょうか。

渡辺指導主事 現状、全校ではないですが、例えば、成績をつける学期末の 1 週間前の 6 時間授業を 5 時間にして、成績処理の時間にするとか、先ほど大木委員から指摘があったように、決して授業を削るということではなく、カリキュラムマネジメントという考え方ができるように、例えば総合でやっている内容と社会でやっている内容をしっかり精査した上で、より質の高い授業を求めていくという形で、我々でも指導していきます。決して削ることで、子どもと一緒にいる時間が全てなくなるということではないと考えています。

辻委員 子どもたちを早く帰して、先生たちが必要な仕事をするという時間は、それはそれで大事だと思いますが、一方で、先ほど申し上げたように、追われるように授業をして、少し理解がゆっくりな子のことも気にかかるが、十分見てあげられず、どうしようと思いつつ先生たちはとてもつらいと思うので、こういう工夫もしてみたい、あ

あいうこともやってみたいなど、子どもたちと何か一緒につくり上げることにかける時間を生み出すことで、心のゆとりができるという広い意味での働き方改革になるようなことができるのかと思って質問しました。

教育長 そういうことも可能です。授業の理解がゆっくりな子どもなど、少し気になる子は放課後に残して、勉強を見てあげるとか、みんなで活動の準備をしましょうといった時間をつくることも今後可能になってくると思います。これまで、あれこれ詰め込み過ぎていたものを少し精選して、必要な時間数で指導はしていき、そこで少し時間のゆとりをつくり上げて、先生方の業務の時間としたり、今お話があったように、子どもたちと触れ合う時間に使ったりというような時間にしていこうという考え方です。

あまりにも余剰、余剰で増やし過ぎていたことが、今、国でも指摘されているということです。

2 国分寺市立小学校知的障害特別支援学級設置等検討委員会の進捗状況について

(事務局からの説明)

学校教育担当課長 資料 No. 2 を御覧ください。国分寺市立小学校知的障害特別支援学級設置等検討委員会の進捗状況について報告します。

本委員会の設置については第6回教育委員会定例会にて報告をさせていただきました。現在、第3回の検討委員会を終えたところです。項番1の検討事項を御覧ください。検討事項は2点設定しています。(1) 新たな学級の設置に関する事、(2) 学区域の変更に関する事です。

続いて項番2、検討委員会の実施状況を御覧ください。まず第1回を5月25日に開催しました。内容は、委員顔合わせ、検討事項の確認、アンケートの実施についてです。こちらの検討事項については項番1に示してあるとおりでありますが、第4次国分寺市特別支援教育基本計画(義務教育時)に示されている内容を踏まえて、設定しています。

また、特別支援学級在籍の児童数が多い第二小学校わかば学級の児童を対象としたアンケートの実施についても協議を行いました。第2回は6月23日に開催いたしました。内容は、第二小学校わかば学級の授業参観、児童の学習状況及び環境について、アンケート案についてです。委員が実際に授業の様子を参観し、その後協議を行いました。アンケート案については、第1回の協議を踏まえ、修正した案について再度協議を行ったところです。第3回については、7月26日に開催しました。内容はアンケート結果、検討事項についてです。アンケート結果については、今後の協議の参考ということで委員の間で共有をしました。また、これまでの協議を踏まえ、知的障害特別支援学級の児童数の増加に対応するためには、学級の新設が望ましいという協議がありました。今後、8月23日に第4回、10月26日に第5回を開催し、報告書をまとめていきます。

(意見・質疑の要旨)

大木委員 ただいまのアンケートについて、お差支えない範囲で少し内容を教えていただければと思います。

学校教育担当課長 こちらのアンケートについては、わかば学級在籍児童、第1学年から第6学年までの児童を対象として、実施をしました。回答については、家庭に持ち帰って保護者と一緒に回答しても構わない形で実施しています。

内容、設問項目については、全部で6問設定しています。1つ目が「学校は楽しいで

すか」「学校での生活に困っていることはありますか」「今授業で使っている教室の広さはどうですか」「担任の先生やほかの先生とたくさんお話することができていますか」「登下校の時間は長いですか」「学校がこうなったらいいと思うことを四角の中に書いてください」という形で6問を設定しました。

回答内容については、児童によって様々ありますが、そちらの意見を参考として、検討委員会の委員の中で把握した上で、協議を進めるという形で、アンケートを活用しているところです。

大木委員 今の検討事項で、学級の新設が望ましいということについては、児童数が増えているという理由もあると思います。例えば、今のアンケートにおいて、児童が教室の広さについては少し狭いとか、先生とあまり話せないなどがあると思いますが、困っていることとして、「児童数が多いこと」というような意見があれば、サポートエビデンスとして、活用できるかと思って伺った次第です。

教育委員会、あるいは学校としては、学級の新設が望ましいということと考えるの提案ですが、実際に児童にとっても、そのほうがより望ましいと思っているのか、ということです。子どもたちの意見を聞くということが全ての基本だと思っていますので、そういう意味で活用できるのかと思って内容を伺った次第です。

学校教育担当課長 今、大木委員がお話いただいたように、回答の結果については第3回委員会で委員の間で共有しており、例えば、「今授業で使っている教室の広さはどうですか」という選択式の設問ですが、①の「ちょうどいい、広い」という回答を選択した児童が13名、②の「せまい」と回答したのは6名、③の「わからない」と回答しているのが4名という状況です。また、「担任の先生やほかの先生とたくさんお話することができていますか」ということに関して、①「できる」に回答しているのが18名、②「できていない」に回答しているのが3名、③「わからない」と回答しているのが2名という状況です。これらの結果を参考として、協議の内容を基に検討事項について、協議を進めています。

大木委員 教室の広さについては、ちょうどいいという児童・生徒もいますが、狭いという児童・生徒もそれなりにいるということなので、広さについてはやはり新設がいいのではないかと思います。

先生とのお話については、これだけ児童が増えているにもかかわらず、あまり話せないというお子さんが少ないというのは、先生方にどれだけ御尽力いただいているかということのあらわれだと思いました。こちらの委員会でも学級の新設が望ましいという意見になったということなので、児童・生徒にとっても、また先生方にとっても、保護者にとってもよりよい形で進めていけるように、御検討いただければと思います。

辻委員 先ほどの件から、サポートエビデンスとしてというお話がありましたが、お子さんたちへのアンケートはとてもよいことだと思いますが、なかなか小さい子だと本当は狭いのに狭いと感じていないこともあるかと思いますが、客観的な大人の目でも見る必要があると思いました。そういう意味では保護者に対するアンケートも考えられるのかと思ったのですが、とてもよいことに、メンバーの中に、保護者の代表が各校から入っているという話を前回伺ったので、その方たちを通して各校の校舎とか、特に第二小学校を御覧になっての感想を現実にお子さんを通わせている保護者の声として、きめ細やかに吸い上げていただくとよいと思いました。

教育長 現実としては、教室が狭いということはないと思います。それは、その人数に

応じた教室を、学校としても教育委員会としても確保していますので、今回視察をしていただいた際にも、教室が狭いというような御意見は出ていませんでした。

ただ、学級の規模が大きいのので、学級全体で何か教育活動しようとか動こうといった場合には、様々な課題が生まれてくると思いますので、ぜひその点について御意見をいただいて、結果として、学級の創設、新設ということであれば、そこにつなげていっていただけたらありがたいと思います。

先生方も努力されていますし、教室を確保したり、環境をよくしようとしたり、あるいは人数が多かったとしても子どもたちとよい関係をつくらうと努力しているので、なかなかアンケートイコール新設とはならない部分もあると思います。実態のところでは構築いただけたらと思います。

実態を多くの保護者の方に御覧いただいたことは非常によかったと思います。またこれから取りまとめも大変ですが、よろしくお願いします。

〔その他〕

なし

〔閉会〕

午後1時03分、教育長は閉会を宣言した。

署名委員

3 番

藤井健志

4 番

辻亜希子

調製職員

廣瀬喜朗

保谷裕子